京都帝國大學新聞

月二回
五日・二十一日發行

購讀料
一部五錢（郵税五厘）
一年一圓（郵税とも）

廣告料
一行につき金五十錢
（記事中は此二倍）
掲載ページを指定するときは二割増とす

發行編輯兼印刷人
入山雄一

發行所
京都帝國大學
學友會新聞部
電話上九八〇番
振替大阪七三二八九

今年度も現れた！
文學部の制度に泣く
宙に迷ふ國史專攻志望者
一部に改則要求の聲起る

試驗も愈々旬日の後に迫つて、憂鬱にかりたてられた一般學生は味氣ない生活を、悄鬱に包まれた一日を送り迎へしてゐるが、茲に、文學部の制度規程のかせの故に一生の伴侶ともすべく學生を精選して、未來への希望に胸躍らせ、大學に入學し、一年間、志望學科の研究に精力を傾けて來乍ら、切角の專攻志望學科に這入れるか、どうかの不安に捕はれて、唯さへ陰鬱な感情は一層拍車を加へられ、試驗勉強も充分手につかず、〃入學はしたけれど〃の皮肉な悲哀をなめてゐる者がある

文學部在來の制度規程によれば、文學科のみ專攻科目を一つの獨立單位として、入學願書提出の際、各自專攻科目を屆出て

定員超過

の場合は選拔試驗を行つてゐるが、特に哲學科、史學科は專攻科目を最初から決定せず、一年間の豫備期間を置いて、第一學年の終りに受驗科目屆出と同時に其志望學科の屆出を行ひ、專攻科目志望者が定員を超過した場合には第一學年の成績順位に依つて收容して居る、この制度に依れば、定員超過の場合は、志望者、大學に入學し乍ら、志望學科に這入れず、心にもない學科に廻されるか、將又、無所屬の宙に迷つて翌年まで待機せねばならず、毎年、相當の犧牲者を出して居る有様である、今年も例年通り事務室では去る廿日午後四時受驗科目と同時に專攻學科目の屆出を締切つたが哲學科收容定員に比して、今年度も相不變

專攻志望

者は著しい不平均を示し、一方では二倍半も超過し乍ら、他方では五分の一にも滿たぬ有様である、これを數字にすれば

△哲學科	收容定員	志望者
純哲學	一五	二三
教育學	一五	八
社會學	一五	六
心理學	一五	六
美學	一五	五
倫理學	一五	五
支那哲學	一五	五
佛教學	一五	三
印度哲學	一五	二
宗教學	一五	一
西哲史	一五	一
△史學科		
國史	一〇	二四
東洋史	一〇	一一
西洋史	一〇	七
地理學	一〇	六
考古學	一〇	一

であり、國史の如きは十四名も超過してをり、是に反して、宗教學、西哲史、考古學は各、一名にしか過ぎず

不足の折

は別として も、國史專攻志望者廿四名のうち幾人かの去就は未決定であり、恐らくすれば何人かはシャット・アウトを食ふべく約束され、殊に、史學科一回生が昨年度選拔試驗をうけて居りながら、再び篩にかけられる事になり、入學試驗のやり直しの感があり、幸ひ、今年度は定員超過の無かつた哲學科にしても、將來、國史同様の事象を示す可能性は十二分にあり、一部學生の意向によれば、東大文學部同様專攻科目を一つの獨立した單位として最初から入學せしむるか、又は、志望者全部を收容せしむるかの何れかに決定する必要があると要望する聲が高い、哲學科史學科のこの矛盾に對して、同學部に於ても、文學科のみ東大式なのは不可解であるとの疑問もある

〃最初からの專門化は
將來の大成に障害〃
野上文學部長談

この點につき野上文學部長の意見をたゞせば、まあ止むを得ぬだらうなと推察して次の如く語つた

東大式に改正する考へは今の處は持つて居ない、と云ふのは東大式に最初から專攻科目を決定する事は、リベラル・カルチュアなしにスペシャライズしてしまつては學問と云ふ性質上面白くない結果を來さないかと思ふ、また、高校を出た位の學力で專攻科目を決定するのは無理ではないか、一年間の選擇期間を與へてあるこの制度の方が餘程親切だと考へてゐる、しかし、志望科目が專攻出來ぬのは氣の毒だから、少し位の無理はしても收容すべく努力し又、從來もさうして來てゐる、實は一文學科も哲學、史學兩科同様にしたいのだが哲學の關係があるので止むを得ず東大式にしてゐる次第です、世間で浪人するより、角帽を冠つて浪人してゐる方がいゝぢやないかと思ふ

親心子知らず
かも知れぬが
一學生は語る

この制度の缺陷については大學入學以前から相當疑問を持つて居つた次第ですが、それが、今、實現した譯です、規定には專攻科目を第一から第三迄順位を定めて志望し得る様になつてゐますが、同じ史學科にしろ又、哲學科にしろ、第二志望に、第一志望と似たものを屆け出たとしても、そこには相當の開きがあるし、殊に、入學以來、一年間志望學科目の書物を手に集め、勉強もそれに集中して居たし、若し他に廻される様な事があれば種々な意味で困る次第です哲學科、史學科をこの制度にした理由に就いて先輩から聞く所によると、東大式專門的になる傾向を避け、一年間一般的な基礎知識を授けた上で、改めて專攻を決めさせ

宙に迷つたり、變な學科に廻されるのは厭ですからね

法學部の試驗
日割訂正さる

前號既報の法學部時間割はその後次の二科目の日割改正が發表された

商民第一——三月二日午前を三月十八日午前に改正

商民法——三月十八日午前を三月廿日午前に

法學部の三助手
助教授に昇任

法學部助手左記三氏は一月十六日付でいづれも助教授（七等十二級）に昇任した

（民法）於保不二雄
（商法）大森忠夫
（民訴）中田淳一

春は大空へ！
飛行機に乗つて
航空研究會の實習

學內京大航空研究會では此の春休みを利用して各務原飛行第一聯隊で實地練習（三月十四日から廿一日まで）及び名古屋三菱航空機製作所見學をなす、希望者は三月十日までに工學部機械二年辻君日比君及び經濟學部一回横山君に申しこまれたしと

宮中講書始に
新村出教授進講

一月二十八日午前十時から宮中において講書始の儀を行はせられたが、本學教授新村出博士は「和名類聚抄」について謹んで御進講申上げた

學習院〃輔仁會〃の
「京櫻會」への轉身
公達も非常時意識に
感ずる所あつてか

華族の子弟で本學に在學するものが少くないが、之等公達連に萬一思想問題或ひは風紀問題等々で問題を起すことがあつては、華族としての體面を汚すのみならず、とり返しのつかない結果を招來する恐れもあるので、華族會館京都分館ではこれが對策につき色々と頭を惱ましてゐたが大炊御門經輝侯、藤井兼道子、松平信英子らが發起人となり本學在學中の華族の子弟を一丸として〃京櫻會〃と稱する思想正導、人格涵養の意味にかける研究會を組織することに決し、第二土曜日を研究日として毎月一回會館で研究することとなつた、これについて大野學生主事を訪へば語る

これは今迄あつた學習院同窓生團體の〃輔仁會〃に似たものと言へるもので、その中華族の子弟達は特に將來皇室の藩屏たるべき重責にあるものであり、酒をのんでカフェの女給にふざけたりしてゐてはいけない、眞面目に確りした人格を養ふべきだとの意向で、今度の京櫻會が誕生した、私に指導してくれないかとの話しもあり、學生主事といふ立場からも大賛成なので承諾した、〃確りした人間をこしらへる〃のを主眼とするもので日本精神の涵養も又一要素をなさう

紀元節拜賀式

來る十一日は紀元節につき　御眞影を本部階上大ホールに奉安拜賀式舉行、教職員は午前九時から十時まで、學生生徒は同十時から十一時までの間に參賀せらるべし、但し學生生徒で午前九時から十時までの間に參賀の場合は、學生控所で記名するか又は名刺を差出すだけにすること

春あさくして
豫餞會相つぐ

既報一月十七日夜の法學部有信會の豫餞會を皮切りに各學部、各會の豫餞會が相ついで催されてゐる

甲寅會（五日）

甲寅會では本日午後五時半から學生集會所階上で今春卒業生のために豫餞會を開催するが、餘興として漫才、民謡、漫劇等あり頗る盛會の筈、多數參加せられたしと、なほ一、二年生は臨時會費金二十錢を要する

文學部（六日）

文學部學友會では明六日長い間の學生生活の絆を斷つて象牙の塔から愈々社會の荒波の中に飛び込まうとする新卒業生のため盛大な豫餞會を開催する、同日午後四時半本部本館前で記念撮影をなし、樂友會館で晩餐會を催す、餘興としてはエラン・ヴイタール小劇場の出演で、ジョルジュ・クウルトリイス作、岸田國士譯「署長さんはお人好し」一幕の實演あり、會費五十錢多數の出席を希望すると

寄宿舍

寄宿舍では去る廿四日午後六時より松井總長、阿部學生課長、大野長崎兩學生主事その他の來賓を迎へ、學生集會所で豫餞會を開催した、開會の辭に續いて總長の切々たる餞別の言葉に一入惜別の感を深くし、卒業舍生三十八名のために酒汲みかはし健闘を祈り十時盛會裡に散會した

理學部

理學部同明會の豫餞會は去る二日寺町村瀬で午後六時半から開會、園理學部長の祝辭、大幸名譽教授の社會における成功の要諦は健康と、利他主義と一致團結の精神にあるとの訓諭、松山教授の卒業生の門出を祝ふ意味で鞍馬天狗の謠あり、出席者園部長以下百十三名、盛會裡に九時過に閉會した

既に百三十名
就職きまる
例年より二ケ月早く
動き始めたので

昨年より二ケ月早く動き始めた就職戰線は、その就職申込の盛況さとに相俟つて昨年一月末日纔僅に二十二名にすぎなかつたのが今年は既に百三十名を突破してゐる、うち約五十名は滿洲帝國へとその若人の夢を伸ばし、新東洋の建設へと乘り出す

就職運動について長崎學生主事は語る

人物、成績ともに優秀で、體格も頑健とくれば斷じて就職戰線に落伍することはない、實力本位であつて決して情實關係云々を心配する必要はない、何かに一寸情實關係のことが書かれてゐたが、あれは定員以外に餘計に取つたので、實力ある人に何等の影響を及ぼさない、學生は孜々としてその本分に邁進すればよいので、就職問題を悲觀的に考へる必要はない、大體就職狀況は之で一段落の形だが、今の所五、六の保險會社からの申込が來てゐる

就職決定の內譯を統計的に詳述すれば次の如くである

（前號既報以後）

△滿鐵、法4、經4△大同學院（第二次）法6△滿洲電氣株式會社經1△滿洲中央銀行、法2、經2△三井物産、法3△日本電力、法3△安田銀行、法6△三菱商事、法3、經2△大阪商船、法2△日本銀行、法2△勸業銀行、法2△正金銀行、經2△三和銀行、法1、經2△野村銀行、法1△三菱銀行、法1、經1△第一銀行、法1△[illegible]銀行、法1△日本生命、法1△野村生命、法1△野村證券、法1△神戸海上、法1、經1△共同火災、經1△大正海上、經1△第一相互、法1△大阪海上火災、法1△東京火災、經1△昭和製鋼、法1、經1△勸業證券大阪支店、法1△山下汽船、法1△日本電氣、經1△京城電氣株式、經1△京都電燈、法1△王子製紙、經1△日本紡績、法1△大丸百貨店、經1△安田貯蓄、經1△ツーリスト・ビユロ、經1△武藏、文1

罹災學友救援
義金芳名
昭和十年一月末日迄の分

十圓 ▼法學部某教授氏

五圓づつ ▼穎原退藏氏▼田中秀央氏▼羽溪了諦氏

三圓 ▼岩井勝二郎氏

一圓づつ ▼石田憲次氏▼原隨園氏

繼續出捐 十一月分のうち

一圓 ▼石野又吉氏

繼續出捐 十二月分のうち

一圓 ▼石野又吉氏

繼續出捐 一月分のうち

十圓 ▼某氏

三圓づつ ▼牧健二氏▼小早川欣吾氏

一圓五十錢 ▼入山雄一氏

一圓づつ ▼久保敏夫氏▼大和義夫氏▼岡村素氏▼天野貞祐氏▼神戸正雄氏▼財部靜治氏▼本庄榮治郎氏▼小島昌太郎氏▼汐見三郎氏▼高田保馬氏▼作田莊一氏▼石川興二氏▼谷口吉彦氏▼八木芳之助氏▼和田俊雄氏▼松木敏三氏▼西內貞吉氏▼木村正路氏▼玉城嘉十郎氏▼吉田卯三郎氏▼山本一清氏▼上田穰氏▼志田順氏▼野滿隆治氏▼佐々木申二氏▼野津龍三郎氏▼宇野傳三氏▼駒井卓氏▼岡田要氏▼郡場寬氏▼中村新太郎氏▼松山基範氏▼松原厚氏▼槇山次郎氏▼荒木俊馬氏▼石野又吉氏

五拾錢づつ ▼蜷川虎三氏▼中川與之助氏▼柴田敬氏▼大塚一郎氏▼松岡孝兒氏▼堀江保藏氏▼岡村博氏▼中山若枝氏▼竹田新一郎氏▼長谷川萬吉氏▼佐々憲三氏▼滑川忠夫氏▼石橋雅義氏▼田中正三氏▼小泉源一氏▼本間不二男氏▼熊谷直一氏▼松下進氏▼田久保實太郎氏▼向後俊氏▼中尾俊生氏▼脇村利一郎氏▼松田三瀨氏

計九十八圓

外に前號までに發表の分

六百二十七圓五十三錢

合計七百二十五圓五十三錢

內二百六十圓分配ずみ

京都帝國大學新聞

法學部評議員

法學部教授宮本英脩氏は一月十九日附で本學評議員を命ぜられた

羽溪助教授
教授昇進に內定

文學部哲學科宗教學第二講座擔任文學博士羽溪了諦助教授は、昨年學位論文「西域佛教の研究」が教授會を通過して文學博士の稱號を得たが、最近の教授會において、愈々教授に昇任する事に內定した

眞理運動
京大支部生る

宗教勃興の波にのつて友松圓諦氏の唱ふる〃眞理運動〃の聲は可成りの反響を呼んだが、本學內においても〃眞理運動京大支部〃が設立されることになつた、來る九日は樂友會館に於ける〃眞理運動京都支部發會式〃を機として大々的に働きかける筈で、本學では經濟學部二回生鈴木一郎君らが主となつてゐる

映研の鑑賞會

學內映畫研究會では松竹座に上映中の「ナナ」（六日まで）キネマ倶樂部の〃坊ちやん〃（七日まで）それぞれ鑑賞券を發行、會員は學生賣店にて受取られたしと

三助教
授外遊

今年度の本學在外研究員はいよいよ上左記三氏と決定、一月二十九日付それぞれ發令されたが、三氏ともまだ見ぬ海外へのあこがれと、研究への若き希望にもえて出發準備に忙殺されてゐる

羽村氏 弱電、送電、配電に關する研究の爲滿二年間ドイツ國に在留を命ぜられた工學部助教授羽村二喜男氏は四月六日出帆の香取丸で出發の豫定

大隅氏 商法研究のため滿二年間フランス國に在留を命ぜられた法學部助教授大隅健一郎氏も羽村助教授と同船で四月六日出發の豫定

齋藤氏 國際私法研究のため滿二年間イタリー國に在留を命ぜられた法學部助教授齋藤武生氏は一番はやく三月七日神戸出帆の白山丸で出發する豫定

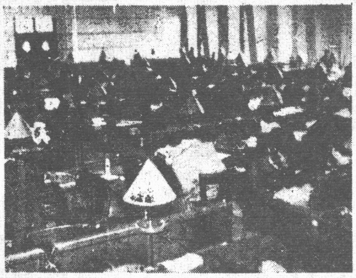
（寫眞は上より羽村、大隅、齋藤三氏）

試驗日割
經濟學部

經濟學部試驗日割は去月廿一日發表になつた

▼……午前—九時—十一時……▲
▼……午後—一時—三時……▲

◇二月十五日（金）午前商論、午後經濟史◇一六日（土）午前商法總則會社法◇一八日（月）午前憲法、午後原論1◇一九日（火）午前債權法、午後佛經1（松岡）◇廿日（水）午前國際公法、午後民法總則◇廿一日（木）午前原論2、午後商業經濟◇廿二日（金）午前會計學、午後佛經2（松岡）◇廿三日（土）午前統計學1◇廿五日（月）午前商工經營學、午後佛經3（松岡）◇廿六日（火）午前國際經濟、午後統計學2◇廿七日（水）午前親族相續法、午後英經3（蜷川）◇廿八日（木）午前財政學1、午後英經2（堀江、岡本）◇三月一日（金）午前工業經濟、午後英經3（柴田）◇二日（土）午前財政學2◇四日（月）午前經濟地理、午後獨經3（大塚）◇五日（火）午前商行爲手形法、午後英經2（中谷）◇六日（水）午前刑法、午後獨經3（柴田）◇七日（木）午前保險海商法、午後英經1（佐波、白杉）◇八日（金）午前行政各論、午後商業特殊問題◇九日（土）午前[illegible]農業論◇十一日（月）午前社會學概論、午後保險論◇十二日（火）午前經濟學史、午後資本主義の研究、十三日（水）午前日本經濟史、午後獨經2（八木、中谷）◇十四日（木）午前經濟學總論午後社會政策◇十五日（金）午前交通論、午後獨經1（堀江）◇十六日（土）午前[illegible]◇十八日（月）午前物權法、午後獨經1（松岡）◇十九日（火）午前經濟事情、午後英經1（堀江）◇廿日（水）午前商業政策



試驗への焦燥
圖書館大繁昌

試驗だ！試驗だ！圖書館は近頃超滿員、十二月末日調べの閲覽統計から見ると合計すれば依然として法學部が斷然多いだけにトップ、しかし、圖書館本館では文學部が第一位で五四七名、法學部は之について三五二名、經の一四八名、それから順次工、醫、農、理といふところ、法經所館閲覽室にくるところでは斷然ズバヌケて法學部が一三七七名の多數、次が經濟の二三五名、文一二四名、工一二〇名、そして醫、理、農の順、圖書館では試驗前の學生のためを思つて既に去る一月廿日から來る二月の七日まで日曜祭日と雖も午前九時から午後九時まで開館してゐる、この閲覽者數は試驗期が近づくにつれて益々增加し例年の統計では二月十日前後には一日平均百二、三十人から百六十人以上にも上るさうである、寫眞は四日午後法經所館に溢れる人達外では吉田神社へ參詣する人の波が、日頃は殺風景な大學の庭を、島田丸髷と華美やかに賑き、何となくお祭氣分にみちて〃節分大學風景〃を描いてゐるのに……[illegible]又辛い哉と思ふです

CORONA Model S
劃期的ノ新機構！
小型輕快ノポータブル
而カモ機能ハ
大型事務用機ニ匹敵
英、佛、獨、露、各國語
數、化、工學用等
凡て完備
東京銀座　黑澤商店　電話銀座1638
京都寺町　文適堂　電話上1004

文部大臣閣下竝に內務大臣閣下を始め邦家の諸名士三千餘氏の贊助を得たる國家的大出版！

大日本文庫

文學博士 井上哲次郎
文學博士 上田萬年
監修

●日本精神の理解と涵養と振興に積極的の貢獻をなす
●日本古典の新時代に於ける空前絶後の集大成である
●斷じて他の追從を許さゞる學的體系と統制とを有す
●編纂校註者には悉く現代の最高の權威者を網羅せり
●國民的必讀の定本を作る爲に積極的の加擔をされた
●毎巻首には古典正讀の爲に指導的解説を附してある
●原典の漢文は悉く正しき書下體の假名交り文に改む
●本文は總振假名頭註附なる故誰にでも樂々と讀める
●印刷紙質製本裝幀等には最上級の苦心を凝してある
●邦家の諸名士三千餘氏から絶大なる贊助を得てゐる

甲乙第一回配本
武士道集 上巻
東京帝國大學名譽教授 文學博士 井上哲次郎先生校註

井上博士が八十歳の高齢を以て殆んど寢食を忘れて心血と努力を傾けて全部自ら校訂注解せられたものであつて、その結果は四册に燦として輝いてゐる、これこそ正にわが武士道精神が具體的に發揮されたものといふべきである。

甲丙第一回配本
日本書紀
東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄先生校註

校訂に關する平泉博士の苦心は誠に言語に絶したものであつた。校正の出始めたのが一昨秋十月、以來精緻なる研究と共に校合の業は日と共に改まり、朱註を加へて遂に今日の定本をみるに至つた。この同じ努力と熱誠が、六國史以下の國史篇について加へられることを思ふと實に頭が下るのである。

國體・神道・儒教・佛教・勤王・武士道・心學・藝道・國史・地誌・文學篇

國學院大學教授 文學博士 植木直一郎
東京帝國大學助教授 文學博士 中村孝也
史料編纂官 文學博士 山本信哉
國學院大學教授 文學博士 佐伯有義
文學博士 田中義能
東京帝國大學教授 文學博士 宇野哲人
駒澤大學教授 文學博士 小柳司氣太
文學博士 常盤大定
東京帝國大學教授 文學博士 長井眞琴
史料編纂官 文學博士 渡邊世祐
史料編纂官 井野邊茂雄
神宮皇學館教授 土田誠一
東京帝國大學名譽教授 文學博士 井上哲次郎
東京女子大學教授 文學博士 尾上八郎
東京帝國大學名譽教授 文學博士 瀧精一
東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄
東京帝國大學名譽教授 文學博士 上田萬年
文學博士 佐々木信綱
文學博士 志田義秀
東京帝國大學講師 文學博士 高野辰之
東洋大學教授 島津久基
文學博士 高木武
東京帝國大學助教授 文學博士 久松潛一
東京帝國大學教授 文學博士 藤村作
京都帝國大學教授 文學博士 吉澤義則
文學博士 和田萬吉
早稲田大學教授 野々村戒三

豫約募集 內容見本進呈

一册 金一圓五十錢
申込金 金一圓（甲乙丙共）

甲 全百册 國體篇・神道篇・儒教篇・佛教篇・勤王篇・武士道篇・心學篇・藝道篇・國史篇・地誌篇・文學篇
乙 全四十六册 國體篇・神道篇・儒教篇・佛教篇・勤王篇・武士道篇・心學篇・藝道篇
丙 全五十七册 藝道篇・國史篇・地誌篇・文學篇

甲 每月二册宛配本 每月拂 金三圓（送料は別） 一時拂 金百四拾五圓
乙 每月一册宛配本 每月拂 金壹圓五拾錢（送料は別） 一時拂 六拾五円
丙 每月一册宛配本 每月拂 金壹圓五拾錢（送料は別） 一時拂 金八拾円

春陽堂
東京日本橋通三丁目
振替東京一六一七番
全國書店ニ見本アリ

貧乏とは何ぞや

再び天野教授に答ふ（上）

高田保馬

天野教授は京都帝國大學新聞第二百十二號（昭和九年十二月五日）において、「貧乏に關する高田教授の解明を讀む」といふ題の下に、私見に對して再度の批評を加へられた、私の未熟なる見解に對して詳密なる分析と教示とを惜しまざる態度について、まづ深く感謝しなければならぬ、ただ不幸にして同教授の高教に拘はらず、私は何等自己の意見を改むべき理由を見出し得ざるのみならず、同教授の貧乏の概念について若干の疑問を抱かざるを得ざるに至つた

同教授の再論は八段に分れてゐる私はそれの一々に對して順を追うて答ふるよりも、教授の批評がある一の貧乏の概念の上に立ち、それから導き出されてゐるが故に、此の貧乏の概念そのものに分析を集中することが便利でもあり、又必要であると思ふ

貧乏とは何ぞや、卒直に信ずる所を云へば、天野教授はこれについて正確なる理解を有してゐられない、また私が「貧乏の謬」とのべたる貧乏の概念をも理解してゐられない、貧乏の正確なる概念を有せず、又私の貧乏概念を理解せられざる以上、私の貧乏理論を批評せられても、私見がその爲にくづるゝはずはないのである、願はくばこの粗大に近い主張を許されよ

貧乏は本來社會的事象である。社會學の考察の爲に三十年の勢力を傾けて來た私は、自己の專門の畑のことからとしてかく信ずるならば、信ずるまゝを率直に云つてもよいと思つてゐる、然らば、何故にかくいふか

天野教授によれば、貧乏又は現實の貧乏とは（他の規定のことは述べてゐられないが）人間完成を妨ぐる生活であり、「人生の害惡」である、低くても貧乏でない生活は「社會に對する積極的奉仕が阻害されない」生活である、「知性も情意性も肉體性も、端的に云へば全人が能ふ限り開發育成」せられてはじめて社會的奉仕が行はれ得る、貧乏は此奉仕を妨げる生活である。（昭和九年十月五日の同新聞にかける教授の最初の論文を參照せられたい）、だからこそ「人間完成を妨げぬ貧乏といふ如きものは冷くない水とか熱くない火とかいふ種類の概念で非實在的對象である」といはれる、これが果して貧乏の正確なる理解であらうか、勿論簡單にかくかくのものを貧乏といふ、と云ふだけならば、それは教授の任意である、火をさして水といつてもよい、けれども本來、貧乏は社會的事實である、社會に偏存し、人々がそれについて考へ、それに對して行動しつゝある事實である、教授の現實の貧乏といはるゝ以上は、此の事實そのものをつかまへなければならぬ

ところが天野教授の貧乏概念は頭の中で作り上げた假構の貧乏である、事實社會に作用してゐる貧乏といふ事態ではない、若しさういふ人間完成といふ一定の標準、然り絶對的標準に照してこれを妨ぐる生活が貧乏であり、さうでない生活は貧乏でない生活であるといふならば、それは社會的地位の懸隔、差等とは必然なる聯絡のないことである。生活が其の標準に達するならば、どれだけ更に高い生活をするものであつても貧乏でないはずであるし、其の標準に達しないならば如何に高い地位を占め他のものよりも豐なる生活をしてみても貧乏であらう、けれども現實の社會の貧乏はさういふものではない、それはあくまで、相對的のものであり、懸隔そのものに依存する、富あつての貧であり、貧者ありての富者である、貧は此の如く相對的のものであるが故に、それは必ずしも、生活內容又は生活の高さを示すものではない、即ち同一の生活の內容であつても、社會の他の部分のものの生活如何によつて、貧であることもあり、ないこともある、これ貧乏であるとなしとを判斷すべき標準が社會の事情によつて異なる所以である、だから低級民族の酋長よりも遙に高い生活を營むといはるゝ文明國の勞働者が貧乏である、昔時の大名よりも更に多くの生活の利便を享受する今日の月給取が貧乏である

各時代にはそれぞれ一定の生活標準がありこれに達せざる生活を貧乏と見る、これに達したいと望んで達せざるが故に、其生活即ち貧乏の生活は苦しい、貧乏は生計の上の難儀であるといふのはその故である、而して此各社會特有の生活標準といふものは一の社會意識的內容であり、ある意味においては傳統と風習との結果である、貧乏とは生計上の難儀であると云ふ私の定義は斯く解せらるべきものである、而してこの難儀即ち悩みの正體は主として力の欲望の充されざることに外ならぬ。かく解するのでなくては、貧乏の標準が時と所とに應じて異なる理由を解し難い、貧乏の標準が絶對的のものであると云ふのは、貧乏であるなしの標準が同じ文明の段階にかても國により而も國民の一般的生活程度の如何によつて異ることを忘れたる見方である、私の嘗つての著書「人々と貧乏」は誤れる貧乏觀即ち貧乏の標準を絶對的のものと見る見解を根本より否定したものである

附隨的のことであるが進みて考へよう。人間の完成が何を意味するかは、とる所の人生觀乃至形而上學的見解に依つて如何とも異なるものである。而も人生觀そのものが主觀的のものであり、萬人に通じたものの存しないことは歷史の示すところであり、其の知識としての性質の示すところであらう。故に人間の完成を妨ぐる生活としての貧乏の解釋は誤れるものであるばかりでなく、立場々々によつて異なれる內容のものたらざるを得まい。これでは社會における與へられたる一定の事實を何人も承認し得る樣に把握し得させる筈がないのである

私見によれば貧乏の正確なる理解は上の如きものであり、私の貧乏概念は以上の如きものである、天野教授は私の見る所、貧乏について誤れる解決をもつていらるゝばかりでない。私の主張を讀み乍らこれを理解せられなかつた（贊同せらるゝや否やは別として）故にその批評は理解せられたる上の批評ではない。批評を加へらるるためには、なほ一線を進まるべきであつたと思ふ。以上の主張に基いて論駁の細目に論及しよう（未完）

日本主義とは？

北昤吉氏講演

日本主義とは果して何であらうか今日日本精神を口にする人は、西洋をけなす場合に於てはその現在（Sein）を以てし、日本精神に關してはその理想（Sollen）に於て論じてゐる、即ち無理な比較をしてゐるのだ、私の考へでは日本精神は Sein のもので――多くの場合民族性の長所と言つたものを考へた、その核心である

凡そ主義とは多く Sollen に關し日本主義も亦 Sollen である、換言するならば先に述べた日本精神を基調にして、その使命理想の實現に努力することである

而して日本主義は又國家主義の一つでもある、國家主義とは一般的にその使命を自覺して――獨特の傳統、地理等々より來る特定の使命遂行に努力せんとして、富國强兵的存在の主張もあり、更に進んで文化の進展に貢獻せんとするものである、日本主義はこの一般國家主義中の特定なるものである

是に關連して國民と民族との區別如何かと言ふに、人種とは生理的特徴により區別したもので生理的概念であり、國民は同一主權下にあるといふ政治的概念である民族となると一寸困難なようであるが次の様に定義する、歷史傳統を共有し、その共有の自覺を持ち更に是に對して親愛、誇りの感を抱き、將來に向つても共通の夢、憧憬を持つ、即ちこれは歷史的に成長したものである、この場合國民と民族との範圍は必ずしも同一でない、この事から一民族一國家なる民族主義の運動が十六世紀の西班牙、亞米利加から起り、十九世紀に入り伊太利、獨逸の統一により盛となり、世界大戰前後には民族自決により民族と國民との一致なる命題が實行された

この民族主義の形に、少數同民族のための政治鬪爭、或は未回收地の回收、その外さらに地理的、經濟的、國防的の觀點から劣等民族の支配なる不純粹な形態に於ける民族主義もあり得る

日本主義は現實の姿として、日本民族の生存確保の意に於て不純粹なる民族主義でもある、が國家を民族の生活狀態と考へ、日本民族性を基幹として理想使命を果さんとする意に於て明かに國家主義の一である

國民主義の道德如何、主體から言へば Common Goo[l] は常に「善」であるが、目的より考へる時、國民のための道德は時として國際道德に矛盾し、個人、家族道德にも衝突する、トレルテイは世界宗教と國民主義とを論じて兩者は斷じて兩立しないと述べてゐる、其民族の神々がその國民主義に調和するにすぎない、マキヤベリーは既に世界宗教を否定してゐる、世界宗教の立場から異端者であるマキヤベリーは近代精神の權化であり、その國民主義の勝利は現實に於て何人も否定し得ない

その國民主義の主張においてベルグリンもオイケンも〃一國の文化價値は世界歷史的意義による〃と立論してゐる

民族の文化擁護の生活形態が國家なる故、方便的方面として富國强兵がありうる、この場合この富國强兵にのみ汲々として民族文化の點で貢獻する所なきに至らずやの懸念もありうるが、例へば鳩が天空を翔る場合、空氣の抵抗を感じて、若し眞空なりせばより自由に早く飛びうるだらうと考へる樣なもので、文化目的の手段は障碍たると同時に貢獻でもあるのだ、これは世界文化との關聯において除礙されうる

日本主義も日本の持つ特定の使命の問題――具體的に說明するならば、亞細亞の解放、東西文化の融合による新文化の建設――を遂行せんとする國家主義である

その內容を精確に把握せんに、亞細亞の解放に關して三つの思想がある、1は擴實的亞細亞主義――黃色人種の反抗同盟、2は自主的亞細亞主義――亞細亞人の權益の保全保護、3は文化的亞細亞主義――亞細亞文化の綜合なぞ凡そ夢想的なり、思ふに眞の亞細亞解放は、大日本が眞に他國よりの脅威あることなく完全に自己を主張することにより――他の亞細亞諸國が日本の露西亞擊破によつて揮ひ起つた如くに――望み得られるであらう

東西文化の融合に於ては、日本的なものを基調として滋養物としての西洋文化を吸收することにより日本の文化を完成せしめ以て世界文化に貢獻すべきである、敢て世界統一を望む可きに非ず、個々別々の特殊なる內容價値に滿ちてあることこそ世界文化の發展であり この意味で日本主義は世界的な本主義へと動向する

私は治療せねばならない病氣もあり更に不養生でもあるのだが斷じて日本は不死身であるといふ樂觀的な見地からお話した事を一言お斷りして降壇する（文責在記者）

最近歐洲の政局

田中直吉

最近の歐洲における血みどろの動亂・事件等々の續發はその政治的危機の上昇を示してゐる。一九三四年は前年以來のドイツ軍備平等要求に對する英佛間の緊張に始まり、パリーの動亂、オーストリアに於ける社會民主黨の大暴動、バルカン條約の成立、伊墺洪三國の經濟協定の成立、ラトヴイア社會黨の暴動、ブルガリアにおけるクーデター、スペイン及びリスアニアに於ける革命、ナチス突擊隊の首領處刑、オーストリア・ナチスの暴動、ドルフス首相の暗殺、ヒットラー元首に對する國民投票、ドイツ及びポーランドの東歐ロカルノ條約參加拒否、ソヴイエトの聯盟加入、マルセイユ事件等々――實に過ぐる一ヶ年間に於て歐洲は世界大戰以來の十數年間に起つた事件より以上の數多の出來事を經驗して來た。本年に入つて行はれたザール人民投票に於けるドイツの壓倒的勝利と佛伊の中歐協定もこの歐洲の不安を解消するものではない。否、歐洲の天地は依然として暗雲に蔽はれてゐる「歐洲の不安」が語られ「歐洲の危機」が叫ばれてから幾久しい。

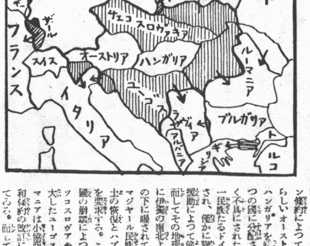
だが、一體何處に所謂ユーロピアン・クライシスの原因があるのか歐洲危機の正體は何か。

◇

今日の歐洲不安の原因に就ては色々な說が唱へられてゐる。或はその原因をヒットラーの强行政策に歸し、或は世界大戰・世界經濟恐慌等に求められ、或は列强の勢力均衡の破綻にあると謂はれる。併しながら、それ等は結局より根本的な原因――歐洲における資本主義經濟の崩壞――にその根抵を根ざしてゐる。歐洲政局の不安はその土台を成してゐる經濟自體の衰退に加ふるに、世界大戰・ヴェルサイユ條約によつてその經濟が破壞され、世界經濟恐慌によつて益々その矛盾が激成された結果に他ならない。而して世界大戰の結果最も大打擊を受けた中歐の諸國が歐洲危機の中心を成すのも亦當然であらう。從つて最近にかける歐洲政客の不安を物語るためには、現在の歐洲國際政治の礎石たるヴェルサイユ條約にまで遡らなければならない。

◇

ヴェルサイユ條約によつてドイツは西部國境に於てアルサス・ロレーンをフランスに、ユーペン・マルメデイーをベルギーに、北部ではシュレスウイッヒの一部をデンマルクに、東部に於ては西プロシアおよびポーゼン諸州の大部分と上部シレジヤの大半とをポーランドに、メメル地方をリツアニアに割讓した。更にドイツは植民地の全部と商船隊の大部分を奪はれたのみならず、軍備は極度に制限され、巨額の賠償負擔を課せられた。斯くの如くヴェルサイユ條約はドイツの手足を完全にもぎ取つただけでなく之に重荷を背はしめた。ドイツ資本主義の發展のためには、どうしてもこの束縛から離脱した喪失した領土を恢復しなければならない。然しドイツのこのヴェルサイユ條約の廢棄若くは改訂の要求は佛、伊、小協商國等と必然に衝突する。ロカルノ條約によつて西部國境の現狀維持を約したドイツは東部國境の變更と獨墺合同に向つて進んだが、それはポーランド及びフランス等の强硬な反對にぶつかつた。ローザンヌ會議によつて賠償負擔は實質的に抹殺されたが、ドイツをば外債支拂ひの苦惱から救ふことは出來なかつた。軍備均等權の要求とヴェルサイユ條約廢棄を主張するヒットラー政府は一般軍縮會議及び國際聯盟から脫退せざるを得なくなつた。更にオーストリアのナチス化によつて一擧に獨墺合併を實現せんとしたが、それは英佛伊の反對戰線、オーストリアのファシスト政權を生んだのみならず、イタリアと衝突して伊佛の接近を齎した。ポーランドと提携してソヴエートの擁在に於て東部地方を回復せんとする政策はソヴエートのフランス接近及び聯盟加入にまで發展せしめた。以上の如くヒットラーの强行政策はその要求を何一つ貫徹し得ずしてドイツを國際的孤立に陷らせたに過ぎなかつた。併しながら、ヒットラー政府がその獨裁を維持するためには國民の眼を外國に向けしめなければならない。そのためには宣傳的な强行政策の續行を必要とする。ヒットラー・ドイツはザールに於て壓倒的勝利を占めたその勢に乘じて如何なる方向に進出せんとするか。それは今後に於ける興味ある問題であるが、次に[illegible]の諸勢力が相抗爭する中歐並にバルカンの方面に眼を轉じよう。



五千百萬の人口を有した墺洪帝國はサンゼルマン條約、トリアノン條約によつて六百五十萬人の新らしいオーストリアと八百萬人のハンガリアを殘して他の地方は五つの國に分割された。經濟には全く不具にされたオーストリアは同一民族たるドイツとの合併も阻止され、僅かに聯盟と英佛の金融的援助によつて餘命を保つて來た。而してその地理的位置は不可避的に伊獨の南北よりする强力な壓力の下に曝されてゐる。ハンガリはマジヤール民族が住む奪はれた領土の恢復とハプスブルグ家の復興を要求する。これに對して墺洪帝國の崩壞によつて創設されたチエツコスロヴアキアとその領土を擴大したユーゴスラヴイア及びルーマニアは小協商同盟を結成して平和條約の改訂には終始一貫反對してゐる。而して小協商國の背後にはフランスの勢力がある。他方に於てアルバニアを保護國と化したイタリアはオーストリア及びハンガリアの要求を支持して小協商國特にユーゴスラヴイアを脅かしてゐる。昨年二月フランスの後援の下にユーゴ、ルーマニア、ギリシア、トルコはバルカン條約を締結し、これに對抗して三月イタリアはオーストリア及びハンガリアと經濟協定を結んだ。斯くしてバルカンに於ける佛伊の對立關係は激化したが、その衝突を防ぎ、オーストリアに對するドイツの攻擊を防衞するためには、佛伊間の諒解が必要であつた。この企圖は、昨年十月のかのマルセイユ事件によつて一度は蹉跌したが、遂に本年一月の中歐協定によつて佛伊兩國の妥協が一應成立した。

この佛伊の妥協が如何にして成立したか。又今後如何に發展するであらうか。更に最近の歐洲政局を論ずるには東歐ロカルノ條約・バルチイク協定等々を述べなければならないが、既に紙數の制限も超過したから、此等の問題は他の機會に改めて考察することにしよう。●

農大前
岡本寫眞場

內外時事

釋瓢齋

日本人の增殖率が昭和十年で頭をついたとして、それから二十ヶ年は勞働需要者數が年々二三十萬は殖ゐる勘定ださうで▼いはゆる非常時の重壓が此の問題に蓋をしてゐるが、數は正直に積みあがるから安心は許されない▼そしてマルサス氏の警告の最も惡い方面が展開してゐるとみてもよく、これから展開すると考へてもよい、そこへ南米パラグワイから邦人二十五萬人の招聘談をきくのは、たとへ九牛の一毛にせよ、數字的な安心を得られる▼殊に八方塞がりの日本の移殖民に、小やかながら一門が開けるときくと、愛憐的な和やかさが湧く▼地圖をみてさへ氣が遠くなるほど廣大なブラジルが、遠からず排日に出ることは、五七年の前から豫測されてゐた、果せるかな、ソレをやつた今日なら、せつかくの好意に甘へて大量移民はできぬものか▼どうもその點、政府の熱の入れ方がたらぬ、盛上る國民數を前にして、拱手してゐる形にみゆる▼只今のところ、帝國議會は無解散でゆけさうにみえてゐて、大政友の肚裏、消化しきれぬ爆彈がある▼炸裂せずして、やめばとにかく、時の機みで火がつかぬとは限らぬ▼議會解散、岡田內閣瓦解の兆がみられぬでもない

昭和十年は內政的な非常時にならぬか▼外豪の兵火は日ソ兩國に關聯して考へられた時に重大性を帶びるが、さして大事には到るまいと判斷する▼重なる理由は、その犠牲にあり、島國日本人の、嚴密なる國境觀念で、此のあたりの事を速斷は危險であるが、但、早晩、國境改訂の問題は起るべき性質のものには相違ない▼日支關係の改善もまた喫緊事ではあるが、早急に成果は望まれまい、兩國交涉の前途を考へて望洋の嘆を深からしめる▼判斷の基礎は、支那國民性の會得にある▼かつて頭山滿翁が某大官と對座して、刻下、日本の最大事いかんが、話頭に上つた▼その時、頭山翁が嘯いていふ喫緊の大事は此の頭山に金を持たせることでごわせう、とあつた▼目睫に迫る卒業期をひかへて諸子の最大關心事は、就職問題であらうが、條件の善惡は問ふところにあらず、只實際の外はあるまいが▼老婆親切を希望すれば、京大卒業生はなるべく、京都を四散ありたい▼自然と人工とが、あまり微妙に調和しすぎる京洛の地は、諸子が豪骨を養はるゝ場所ではない▼伊勢平氏も、木曾源氏も、新田源氏も、此の地にゐること永ければ永いほど、骨を拔かれた、恐らく諸子において例外はあるまいと考へる▼最高學府の誇から、窮迫せる世相へ、必ず汚い幻滅がうかぶ、輕薄なる無常感に入りひたつたら永久に埋沒する▼大寒到來いかんかせん、たゞ實際の外、あるまいぢやないか（昭和一〇、一、三一）

亡羊錄

大野久磨夫

滿洲に行く人の爲めに

先日、滿洲中央銀行の木內信胤君（昭和八年法學部卒業生）から次のやうな報告に接した、內容は該銀行のことだが、滿洲に行く人の參考になると思ひ拔萃する

滿洲は不健康地か 滿洲は不健康地と云はれて居りますが京大の松浦博士の如き日本より却て健康地とせられて居ります、事實空氣の乾燥は否認するを得ないが乾燥は却て呼吸器の爲に良いのではないかと思はれる、注意さへすれば虛弱者でも大丈夫だ

初任給九十圓で生活出來るか 新京の物價は內地ではとても想像できない位だが銀行には舍宅の設備あり滿洲國政府に勤務するより生活は樂だ、內地の八、九十圓位の生活だらうと思ふ

田舍の治安は？ 一ヶ年位たてば田舍の支店へ轉勤を命ぜられるかも知れないが生命の危險は先づない、事實現在迄犧牲者一人もなし、却つて滿鐵の犧牲者は數へきれない程ある、まづ安心して來られて良いと思ふ

中央銀行の見透し 自ら宣傳するのも變だが資本金は三千萬圓滿洲の經濟力から云ふも朝鮮など比ではないは當然、從つて中銀の前途も將來洋々たるものではないかと思はれる

勤務狀態はどうか 內地の銀行では算盤、數字の稽古や札數へに一年位やらされるらしいが吾吾未だお恥しい乍ら算盤はろくにできない、半年もすれば相當大きな仕事を任されることがある

こんな人は來るな 以上述べたことは滿洲の宣傳に終りさうだが決して良いことばかりある筈はない、景色や柔かい環境に浸りたい人には滿洲は一寸向くまい、何處で働いても樂しいことばかりある筈がない、安樂を望んで來るのでしたら寧ろ來ない方がましだ

身上相談

數年前から學生諸君のために身上相談をやつてゐる、自慢にはならないが自分で本當にその學生を救ひ得たと自信してゐる者も數名はある、事件が紛糾して一年半もかゝつたのもある、學資困難の暗礁に乘り上げて督促されたり、揺られたりして一年近くでヤット解決したのもある、然し幸ひに今まで遂に力及ばずして、投げだしたのは一ッもない、但しこんな解決のつく問題は到底僕の微力では如何ともなし得ない、就職の事は大部分堤君に廻してゐるので本年は大變助かつた。就職で癪にさわるのは、頼みに來る時は所謂お百度參りで多いのは十數回も會見することがある。友人に紹介してやると、後でその友人から君の紹介の男は採用したと云はれ面食ふことがある報告に來るのが嫌なら端書一本で濟むことだ、これも近頃の學生氣質かと思へば時々は腹の虫が治まらぬことがある、身上相談に早く飛び込んで來れば助かつたにと思はれた事件も屢々あつた

「敵討と切腹」

畏友谷川左一君がその著「敵討と切腹」と云ふ著書を送つてくれたので早速通讀した、近頃は時勢か知らないが、敵討などに關する著書が多く刊行され、殺伐の聲が非常時と云ふ語と調合つてゐる

同君は「古來我國の武士階級特有の切腹に至つては、實に眞劍であり、且つ武士道の精華である、恐らく古今東西を通じて、これ程眞劍で精神的で、而も特種の色彩を放つてゐるものは、他に其の類例を見ないであらう」と述べて居られる、切腹の起源は同書にも永吉文學士著の「日本武士道史」にも明かでないが源平時代から始まつて德川時代には盛んに行はれた、「切腹は主として敵の生虜となつて繩目の恥を曝し、若くは敵手にかゝつて殺される耻辱を免がれる爲め、且つは腹を十文字に切り腸を抽出して苦痛を物ともしない膽勇を示したものである」と。切腹が刑として用ひられたのは百家說林後校記にあるから足利義滿の頃であらう、僕は今こゝで切腹の法式や介錯の事を述べるのが目的でない、先月東京で血盟團の公判を傍聽し、日召の態度に感激し、曾て子であつた五名の學生の元氣な顔を見て眼の緣が熱くなるのを禁じ得なかつた、彼等は一點の生を欲してやつた事ではないのだ、若し日召をして眞の國士として優遇するなら彼が大丈夫としての心事を解し情狀を酌量して一等や二等罪を減ぜず、切腹でも仰付けたら眞に日召の精神に添ふものではないかと僕は考へた

節義を强要す

眞木保臣が「士の重んずべきは節義である、節義は恰も人體に骨格のあるが如きもので、骨が無ければ首が役立たないと同樣に、人にいくら才能や學問があつても節義がなければ本當に世に立つことが出來ぬ」というてゐるが學生に今少し節義を强要したい。現代政黨政派の惡い所を眞似して最高學府の學生が重要なる會に陣笠になり他人に雷同して手を舉げたり流行のチヤーナリストの似非まねして「詳しくは以て考ふべし」などと他を誹謗して喜ぶよりは少しは自己の獨創力を養へと苦言を呈したい

新刊紹介

◇化學評論（創刊號）最近のめざましい化學および化學工業の進展發達は多數の研究報告となつて現はれ、その方面を專攻してゐないものはもとより專攻の學者でもすべての研究に目を通すことは困難な狀態にあり、これらの研究を綜說的に紹介批判する機關が切實に要望されてゐたが、今度本學工業化學教室喜多源逸教授を主筆として雜誌「化學評論」が發刊された、これは化學或はこれに關する自然科學およびその應用方面の綜說並びに紹介を主としオリヂナルな研究報告はなされない、この一月創刊後は年三回一、五、九月發行（化學評論社・一圓）

ロマン・ロラン著　高田博厚譯
ベートオヹン
普及版
定價六拾錢　送料六錢
『不幸な人は、自分と同じ一人の不幸なものが、尊敬に値する藝術家と人間との列に伍することを得しめられんが爲めに、自然のあらゆる障礙にもかゝはらず全力を盡した事を知つて慰められるがいゝ！』ベートオヹン
千萬の若いヨーロッパ人の魂を如何にベートオヹンが鍛へたか！多くの人々は試錬の時に當つてベートオヹンに助けを求め彼の力强い親切な魂の中で苦惱の和らぎと生きる勇氣とを汲み取つて來たのである。ベートオヹンが獲得した勝利は孤獨な一人の人間のものゝみにとゞまらない。それは我々のものである。彼はそのことを望んだ。『他人の爲めに働き得ることは、子供の時からの私の最大な幸福であり樂しみであつた』願はくば彼の不幸が彼以外の人間に役立たんことを！再版出來！

笠信太郎著　菊判總布裝　定價二圓　送料十四錢
金・貨幣・紙幣
貨幣問題の批判久しく品切の所再版出來！
世界經濟恐慌最近の段階は、各國に於ける本位貨恐慌として現れ、資本家社會に於ける「貨幣」の問題を鋭く提起した。貨幣問題はいまや單なる謎ではなく學問的興味の問題でもなく、又商人的利害の問題でもない。却つてそれは社會の各階級層に向つて積極的にその社會的態度の決定を迫る切實にして巨大な問題である。貨幣問題の批判は、それ自身根本的なる社會批判である。大方の要望に應へて、美裝の上江湖諸賢に贈る。

船山信一著　四六判總布裝　定價二圓　送料十四錢
現代唯物論の哲學的意義
具體的知識への方向轉換、實踐への從屬――之は我々が現在急速に實現しなければならないことである。唯物辨證法は、さうして生れ、さうして發展して來たのだ。具體的知識を獲得し、實踐と密接に結びつくことは、我々が哲學を哲學として發展させるにも不可缺の事だ。がそれは誠に困難な仕事である。と言つて斷念することは正しくない。著者はカント、ベルグソン、ヘーゲル、デイルタイ、ジンメル等を經て、最後に唯物論に到達した。かつての著者の立場に多かれ少かれ似て居る立場に立つてゐる人々は、本書によつて著者と同じ過程を、否それを出來るだけ短縮して唯物論の陣營に投ずるがよい。內容、觀念論から唯物論へ、世界觀の客觀性と「傾向性」。唯物論の「批判」と歪曲。他十數項。

ヴアルガ　その他　絶版近し！
日本經濟批判　定價一圓五十錢　送料八錢
ヴアルガ著　資本主義沒落期の經濟　定價七十錢　送料六錢
ヴアルガを除外して世界經濟を分析する事は不可能だ。本書殘部僅少。品切と同時に絶版に致します。

スペクタートル著　世界景氣研究會譯
世界市場戰　定價二圓五十錢　送料十八錢
狹隘化しつゝある世界市場を前に、日本商品の驚くべき進出は世界市場に一大衝動を與へ、その結果日印、日英、日蘭の各會商を初め、その他非常に對する凡ゆる防禦工作が行はれた。かゝる國際通商戰の新たなる發展の檢討、近年に於ける主要商品の市場爭奪戰の眞情を確實なる資料にて纏めあげたのが本書である。この部門の研究書としては最高權威書である。
リヤシチェンコ著　平館利雄譯
經濟學說史　定價三圓　送料三十錢
唯物史觀の立場より描かれたる唯一の名著。好評。
發賣所　京都帝大北門前　電話上六五七八番　振替大阪八三六四三番　富貴堂書房
東京麴町區九段四丁目　振替東京四二八八九番　電話九段二五六八番　叢文閣

季刊　第二號
日本文化
▼「神」「月日」及び「をや」について……中山正善
▼「おたすけ」に就いて……牛尾齊太郎
▼支那上代の宗教思想……宮下太
▼ケムペル以前に渡來せる獨逸人と其の日本記……富永牧太
▼ハンチントン圖書館を見る（二）……高橋道男
▼古建築と新建築……岸熊吉
▼ネンクラーレス日本傳教者列傳……武內村次譯
▼グスマン東方傳道史（一）……新井トシ譯
▼キリシタン傳道師父書翰邦譯目錄……編輯室
▼雜誌掲載宗教論文目錄
奈良縣丹波市町　天理圖書館　電話丹波市一〇三　振替大阪七五〇八

二月一日號
國家試驗
◇不動產に對する財產犯罪……東大教授法學博士　牧野英一
◇行政法上の責任と判斷……東京地方裁判所判事　野間繁
◇民事訴訟法上要件の解答……東京控訴院判事　松尾恭一郎
◇本邦貿易の現勢と其の對策……國家試驗編輯部
◇行政科、司法科合格受驗記　昭和九年高等試驗受驗記
—十一月一日號附錄問答案—　選者　野間繁
◇憲法法律と命令との異同を論ず、憲法改正の方法を說明せよ（井上政聴）◇民法法律の無效を論ず、失踪宣告の要件を說明すべし（山端松昌）◇商法問（能谷大吉）◇刑法自己の物に對する犯罪を說明すべし（能谷大吉）◇刑法（同）不合格答案（某）
東京市本鄕區森川町　帝大正門前　育成洞　電話小石川七八一番　振替東京一七三三四番

小山齒科醫院
東京齒科醫學士　小山正光
市電日出西一丁北入　電話上五八二五番

歐米漫遊と海外留学の洋服はロンドンスタイルの長屋
京大共濟部指定
寺町丸太町南　電上四六三・上五七四四

レコード音樂雜誌〃エルム〃發行
音樂と喫茶
エルム
今出川寺町西入

16ミリ
小型活動寫眞機の御用命は
諸官衙、學校御用達の……
16ミリ活動寫眞機專門店
エヌ・サタケ
京都市六角烏丸東　電話（2）四一三八・六一九三

イタツ時計店
京百萬遍電停前
（京大裏門前）
絶對責任修理

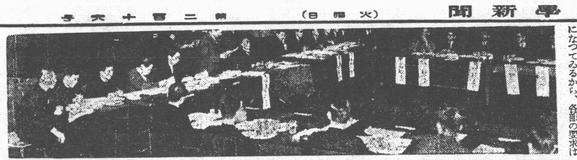
揉め抜いた美術部新設問題

文化、運動兩部對立し

緊張せる役員會

昭和十年度學友會定期役員會は去る一日夜、本部階上大ホールで開會、過日來學內各方面から學友會現制度に對する再檢討の聲起り、一部には解散さへ叫ばれてゐた直後のこととて、何等かの波瀾を卷き起すものと期待されてゐたが、果然アカネ會獨立問題をめぐつて文化、運動兩部の對立感情は爆發し文化部の輕視、運動部偏重に對する幹事諸氏の論駁などあり、又學友會規約に關する意見も出て大いに緊張せる場面を見せ　僅かに無關心會議の終りを飾つた。

會議は定刻午後五時より遲れること十分、松井總長、議長席につき型の如く豐田書記の出席點檢あり議長の開會の辭ありて後、議事に入る



名譽會員

五博士を推薦

議案の第一元教授山本美越乃、末廣重雄、和辻哲郎、鈴木文助、今村新吉、中島玉吉の五博士を名譽會員に推薦の件は、滿場一致を以て可決し、次いで昭和十年度歳入出豫算の討議に入る

豫算案

無事に通過

大野專務幹事より歳入出豫算の內譯の一々につき說明があり、昨年度より幾分の增加の見込みあるをもつて、各部共本年度の割當は昨年に比し幾分の增加を來たすことになつてゐるから、各部の要求は充分充たすを得ないが辛抱して戴きたいと諒解を求め、松田幹事より收入につき會費納入者見込五割五分の說明を求め、大野專務幹事の說明あり佐藤代議員よりこの問題につきこの對策の懇談的討議の提議あり、豫算案につきては何らの異議なく、原案通りあつけなく確定可決

大きく喰込む 基本金の支出

端艇、水泳を筆頭に

平凡な承認成立す

ついで基本金支出の件に入る

議長　最初に專務幹事より總括的に說明願ひます

大野專務幹事　現在一萬五千十三圓五十五錢の殘金があるが今年の樣に七千圓も之を支出すると今後何か出來事の出來た場合非常に困難を感ずるであらうしこの調子で進めば數年後には基本金は消失する事になるから何とかせねばならぬ

ついで議長は一應各部の基本金要求を求め北村代議員立つて風水害の破損によるバツテングケーヂの修理費（百圓）を說明し、白石代議員は端艇部の新造フイックス四艇及び修理費（四千四百圓）につき之が一般學生に益する事に於て會則の目的を深くするものと力說して

試みに一般會員の利用を數字でみるに七年度二五〇〇回（二一〇〇）八年度二三〇〇回（二四〇〇）九年度二三〇〇回（二一五〇）で年々の增加と艇の不足を來してゐる、又この古い艇では生命の安否にも關るから新艇を修理して數を增したいと思ふ

と叫べば阪本代議員劍道防具購入費（二百五十圓）として

防具の壽命は二年位で年々の追加新調もおつゝかず試合每に三高その他より借用してゐるが今年の東京遠征には是非新調してほしい

と歎願する、次に吉田代議員立つて競技部の高度計測器外三點（二百三十七圓）の購入費を說明、岡本代議員は代繕を煩はしてサマーハウスの新設（二千圓）を述べ

サマーハウスは夏の間一般に開放され廿年前から洲本にと思つてゐたが幸か不幸か武德殿あつて十九年間をこゝに過した、所が種々の事情から去年は由良を選んだが旅館の一部とて不便と多く之が新設置につき考慮中であつたが、幸ひ白濱の本學臨海研究所で無償で土地を借れる見透しがついたので何とかして來年度には之を開設したい

旨を主張すれば佐藤代議員代繕者の先例ありやと問ふ。議長說明には差支へなしとし大野幹事も代議員なき部の說明には先例ありと述べる次に藤田代議員立つて多數利用者ある食堂にては料理の美味を保つために料理保溫器（百七十圓）の必要をとき、富中代議員また風水害による、庭球審判臺二臺（五十圓）を理由づけて一應說明を終る。かくして質問戰に入る

水口代議員　基本金はどこから入るのか

大野幹事　前年度の剩餘金を操り入れるのだが近年は減る一方である

諏訪代議員　端艇の要求は餘りに大きすぎるから之によつて學友會が潰れる事があつては困るから四艇を三艇とし修理費も三割分に減じてほしい

ついで園幹事の端艇修理費に關する質問あり白石代議員之に答へば大野幹事新造艇に對する倉庫の問題を出したるに對し同君同志社中學の艇庫借用を以て應じ更に一般用のフイックス以外に選手用のスライデングの費用が不足すれば寄附に待つ旨をそへる、園幹事水泳部サマーハウスにつき白濱の土地提供は教授會に待つもので決定したのではない旨を斷り、更に陸上野球、庭球各部につき質問數多く、ついで大野專務幹事共濟部の要求は既にとつた五千圓から支給すべきを詰問すれば藤田代議員は食堂經營からいへば少額であり物價騰貴のため基本金の一部を要求し今日初めて黑字を見るに到つた現狀をのべる

大野專務幹事　今迄要求しなかつたものを急に要求するとは何か、之は特別會計だから明細にやつて欲しい

藤田代議員　之が有無は需要者の數に影響するからこの際何とかして欲しいと思ふ

諏訪代議員　人件費の節約費用は？

藤田代議員　ほんの僅かです

諏訪代議員　農學部食堂の湯煎設備は不用か

藤田代議員　自給自足が出來たら作りたいと思ふが差當り需要者の多い本部から

島代議員　黑字が出たといふが漬物は制限され飯は不味い、安いばかりが使命ぢやないからも少し美味しくして欲しい

藤田代議員　米代、調味代と詳しい數字を見て貰へば了解がいくと思ふ、そうした食品價値の向上はこの湯煎設備と關係があると思ふ

山下代議員　風害の破損は風水害復舊費から出せないか

議長　大學としては國費のものに用ひるので學友會のものは別である

岸田幹事　大學で作つたものは可能であるが學友會で作つたものは學友會で處置して欲しい

白石代議員　端艇部の提言は餘りに大金であるから新造三艇と讓步し三千三百圓を要求する

松田幹事　サマーハウスは半永久的だから學生の水泳場として風紀の點より特に土地を嚴選されたい

大野幹事　之は夏以外にも使用し得る樣にしたい、今の白濱は松田幹事の言から言へば大分色街になつてゐるので諸合へないが町まで距離もあり大學でも適當の土地を見つけてゐられるそうだから白濱以外にも適當の土地を探す積りだ

議長　二千圓で出來ねばどうする

岡本代議員　出來ねば金は返す積りである

議長　修正意見の出ないものは贊否をとる事にする

かくして議長は支出の件につき採決に入る、その結果は次の通り

◇野球部　五十一票　可決
◇端艇部　三十一票　可決
◇劍道部　五十一票　可決
◇競技部　四十九票　可決
◇水泳部　五十一票　可決
◇共濟部　三十二票　可決
◇庭球部　五十二票　可決

かくて基本金支出の件を終る

「大なる襟度を示せ」

運動部の反省を求めて

園、牧兩幹事の論駁

ついで事業新設の件の審議に入り提案理由說明の後質疑應答に入る先づ（イ）旅行部內の從來の各班を分離して旅行部、遠足部、スキー部、スケート部を新設の件については、旅行と遠足を一つにして旅行部とし、之にスキー、スケートを合體して三部とする修正案が出たが結局採決の結果原案の四部案可決す、ついで昨年以來の懸案である（ロ）の美術部新設の件に入りこゝに俄然文化部對運動部の對立感情は爆發し、滿場頓に緊張す、先づ田倉代議員より提案理由の說明あり

田倉代議員　今すぐ豫算を戴きたいと云ふのではなく、學友會美術部の名が欲しい、又聯合展の場合など大變好都合である

之に對し學友會より豫算を出さないものを部と認めるか、六十圓以上の豫算は今後絕對にとらぬか、などの質問あつて後

大野專務理事　金が要らなければ學友會に入る必要はないではないか、それに元來繪と云ふものは一人で樂しむもので部となるより同好者のクラブとして存在すべきだ、僅かな金なれば學生課の方に相談されたら便宜を計らう

園幹事　美術部の設置に贊成する、大野氏は經濟的に獨立出來るものは部にする必要はないと云はれるが之は間違ひである、獨立出來るものはどし／＼學友會に入れるべきだ、のみならず初めの基本金の支出があつた時若干經常費をとつてゐる、美術部は今は六十圓であるが、學友會の性質から云つても之が將來發展して多額の要求をなすともそれは當然なことである

牧幹事　今日迄運動部が餘りに獨占的である、美術部の經費など全額一萬圓の中、僅か六十圓にすぎないのにそれが全く顧みられない、餘りに不公平ではないか、私は一般學生の上に大きな意義をもつ文化部のために大いに同情する

と兩幹事共に、大野氏に反駁して運動部の偏重、文化部の輕視に對し熱心に主張する、これよりアカネ會員の學友會費納入に關する駄問など出た後

佐藤代議員　文化部の發展が阻害されてゐる現狀を見て、先づ學友會に入らない人もあるのではないかと言ふことも考へられる、この意味で學友會發展の上からも美術部新設に贊成である

島代議員　納入者が段々減じて行くことに對して今の意見は本末顚倒だ、十五圓の會費を納めても一般學生は何らの利益も受けないで運動部が勝手なことをするから橫暴の聲が起るのである、仄聞するところによれば會費を納めたら文化部の事業もうまくやつて行けるのだとがむしやらに喰つて掛れば之に對し

石丸代議員　學友會のために部が殖ゆることはよいが、文化部委員の運動部橫暴云々は間違ひだ、大學の文化的指命は大學自體が行つており、學友會は運動部方面のために存するものだ

吉住代議員　大學に入ると自由になるものだから學友會費を納めない、で運動部橫暴を云ふのは文化部のヒガミだ、皆が各運動部は美術部新設に反對の申合せをしてゐるようだが、金の喰はぬからした部こそ認めてやるべきである

と運動部の怪文書？を暗に仄めかして之に反駁すれば、之について

牧幹事　今日まで文化部を輕視して居り運動部を偏重してきた、之は私一人の意見でなく諸教授、幹部一般の間にも云はれてゐる、中には解散を唱へる人さへある、それで私が運動部に望むことは運動部が從來の感情を忘れて一つ大なる雅量を示して貰ひたい、すれば學友會も段々よくなると思ふ、之は私が講演部長なるが故に云ふのではない、若し運動部がこの際大なる襟度を示せば學友會を發展さすいゝ機會になると思ふ、私は感情を離れて率直に言ふのである

と眞摯な態度を以て堂々述ぶれば滿場はしばしこの正論に耳をかたむけ頓に緊張を呈する、かくして採決に入り三〇—二九で運動部は僅かに一人贊成したのみで難產の美術部も辛くも愈々誕生することとなり傍聽席から拍手さへ起り稀に見る昂奮裡に可決を見た、次いで追加議案として（1）合唱團新設の件（2）ホッケー部の風水害に依るゴール・ポストの修繕の件の審議に入り先づ吉本代議員から提案理由の說明に對して合唱團は音樂部と合體すべきものであるとの意見多數で「音樂部長の許可あり次第合唱團は音樂部內の一班として認められたと」修正して提案全員一致を以て可決し、ホッケー部のゴール・ポストの修繕は餘りにも突然であり、案自體も具體性を欠いてゐると大野專務幹事は該案の留保を求めたので山下代議員はこの案は取消すことにすると述べこれで議案は全部審議を終つたがこの時議事進行について

青木代議員　議案の提出は一月廿四日午後二時嚴守とのことであつたのに今の如く急に當日になつて追加議案の提出を認めるのは不公平でもあり議事進行上多大の支障を來すではないかと述べ、八木幹事よりも同樣の意見出で、次で松田幹事

提出期日を確定してゐるのに後での議案受附けをするとは期日を守つた人に氣の毒だ、何とか規則を定めたら如何

佐藤代議員　之に附隨して議事規則と言ふものが必要である、急に期日後議案を提出せねばならぬとき例へば緊急動議として提出する等、この場合緊急動議成立如何を議長は各員に計るべきである、かうした議事規則の不足で、ルーズに會が進行する恐れがあり、現にさうであるが今日の所は仕方がない、そにしたがよい、例へば廿四條の外議事規則中、慣習法も成文條文以外に說明の場合は代議員に非ざる委員が說明しうる等々

が議長はこれ等については今は大分遲いからいづれ後刻研究することにし度いと答へ、この時

松田幹事　大學新聞についてであるが各會員は洩れなく恩惠に浴してゐるが發行回數が少い、同じ報道機關として不足であるから發行回數を增して報道の使命を全うされ度い、費用足らぬときは學友會から適當の豫算を出すのは當然である

大野專務幹事　前に三回のとはあつた、學生が勉強の餘暇を割いてやつてゐるので氣の毒である、三回週刊は望しいが、學生に學問をさせ度いから已を得ぬ

これに對して新聞部委員の佐藤代議員より來る四月より旬刊にする準備を進めてゐるので、これは部員を增すことに依つて大野專務幹事の心配もなくなりうると松田幹事の希望に應へ、かくて議案の審議は全部終了したが最後に大野專務幹事から設備費中學校當局から補助して頂けるものは當局の經常費にお願ひし度いと會計課長に希望し

松井議長は

これで議案も終了したから閉會とする學友會發展についてはこれから懇談に移りたいと思ふ

と一旦閉會を宣したので開會當初の佐藤代議員の學友會發展策について懇談したいと述べたことも時間が遲いといふ理由で結局は耶無耶に終つた、時まさに十時廿五分

どうかと思ふ

無關心會議

年に一度の學友會大評定だと云ふのに傍聽席はがらん洞の無關心振りを見せ、相變らず一般學生に默殺された役員會だ、昔て議場を混亂と喧噪に陷し入れたあの十年前の熱意と積極的關心の十分の一でも欲しいものだ、全くどうかと思はれる議場風景ではある

◇　◇

會長が議長になると言ふどうかと思ふ慣例に依つて議長席に納つた痩身つるの如き我が松井さんには荷が重すぎるか、お隣りに控へたコーチャ大野專務幹事から時々耳打乃至サインよろしく受けて眼鏡をはづして議事を進めて行く、外は寒風つんざくと言ふのに春日遲々たる如き——どうかと思ふね

◇　◇

運動部橫暴云々は文化部のヒガミであると運動部代議員諸氏は仰言る、だが議席の下をくぐつてオモロイ紙片がチラ／＼してゐたと言ふ、そこで眼敏く認めた某代議員は岡本一巳ではないがさみだれ口調の暴露かかつた——の演說、かくて言ふ所に依れば云々——仄聞する所の怪文書には何が書いてあつたか

前略

今年度代議會に提出の議案に對し、各運動部委員協定の上、運動部選出代議員は左の如き態度をとることに決定仕候間此段御含み置き被下度候

基本金支出の件

（イ）野球部へ百圓　贊成
（ロ）端艇部へ四千四百圓を三千三百圓に訂正の上贊成
（ハ）劍道部へ二百五十圓　贊成
（ニ）陸上部へ二百三十七圓　贊成
（ホ）水泳部へ二千圓　贊成
（ヘ）共濟部へ百七十圓は說明を求めた上、各自の自由
（ト）庭球部へ五十圓　贊成

事業新設の件

（イ）旅行部獨立の中、スケート部の獨立贊成、他は各自の自由
（ロ）美術部新設は否決

臨時動議として音樂部より合唱團獨立の提議ある由、之は各自の自由

以上

これぢや何でヒガまずに居られませうか、どうかと思ふね

◇　◇

美術部新設問題では園、牧兩幹事は聲を大にして運動部の非を鳴らすのに對し文化部選出の中立代議員の沈默主義はどうしたことか、教授連によつて逆に學生文化運動の蹶起を促される、學生のだらしなさ加減、全くどうかと思はね

◇　◇

學友會の發展策等々に關しては無關心主義、事勿れ主義で濟ます氣と見えて、某代議員の提出した動議も時間が遲いといふ理由で一旦散會してしまつたのは全くほんとにどうかと思ふね

原田正夫君に

世界記錄章贈呈

陸上競技聯盟から

日本陸上競技聯盟では昨年九月十六日甲子園で行はれた第二回日米對抗陸上競技會の三段跳で15米75の世界新記錄を作つた本學の原田正夫君に對して聯盟規約第十三條ならびに世界記錄章贈呈規定に依り世界記錄章を贈つた、なほ同君は田島直人君と共に今夏の萬國インター・カレッヂ出場選手にあげられてゐるが、兩君の今後の健鬪は各方面より期待されてゐる

各部豫算

を高額順に

各部	通常豫算	高專大會	對東大戰	計
中央	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
馬術	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
端艇	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
野球	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
庭球	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新聞	[illegible]	—	—	[illegible]
劍道	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
柔道	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
陸上	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
共濟	[illegible]	—	—	[illegible]
旅行	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]
水泳	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
弓道	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
蹴球	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
籠球	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ホッケー	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
ラ式	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]
音樂	[illegible]	—	—	[illegible]
豫備	[illegible]	—	—	[illegible]
射擊	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
卓球	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
排球	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
講演	[illegible]	—	—	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

シーズン回顧（下）

—ラグビー—

內藤資忠

東京諸チームを邀へるに對する策戰

東大、慶大、明大の强豪を短日月の間に邀ふるに當り吾々の最も苦心した點は東大戰に對するメンバーの編成だつた。多少メンバーを落として僅少の差で勝つ方針を採るのがよいか、或は明、早、慶の樣に四〇點以上のスコアで粉碎した方が後の慶、明と戰ふのに都合よいか、で迷つた。强敵慶應F・Wは東都に於て相當の活躍をし殊に其のフロント・ロウの三人は特殊の技巧を持つてゐるので東大戰後三日で此のフレッシュな相手と對戰する事は非常な不利であらう此等を考へ合せて、同大戰後心身の恢復と同時にベスト・メンバーよりフロント・ロウに於て二人セカンド・ロウ一人、バック・ロウ二人、及ハーフ・バック一人を拔いて對東大戰メンバーとして練習を初めた。即ち八人のF・Wから前記の五人を引き拔いたメンバーに大いに進步を期待し、これで勝たねば次の慶應戰に苦戰を免れまいと思はれた。選ばれた五人は實に良く頑張つて研究し練習した從つて其の進境も著しく、總ての條件は吾々を安心させ得る程度になつた。扨此の樣な編成で特に力を入れて練習した事は各員のショック・プルーブになる事であつた。便宜上此の樣な言葉を使用したが、要するにタックル・マシンに飛び込んだり、ラック・スクラムに低く飛び込む事により肩及び頸の各部に及ぼすショックに對して極めて頑健になる事である。次に吾々は最惡の狀態の事を想像して相手に球が渡り、右に左に「ユーサブ」られた場合でも充分これに耐へ得る樣にする爲の練習方法を考へた。即ち三分間連續のプレイである。この三分間の根據は同、明戰に於けるホイスルから次のホイスル間の最長のものを標準とした。

東大戰

花園グラウンドは期待した如き最上の條件ではなかつた。F・Wの多少の組後れ、及びフロント・ロウの劣勢は、若し東大が全くF・W戰に出た場合一昨年の如き不覺を招くやも測り難い。バック・メンに球を廻す戰法ならば假令八割五分の球を奪はれても吾に成算あれども辷り易いフイールドで、スクラムの大部分の球をバックにキープして押して來られては味方F・Wは全く壞滅するやも測り知れない。此の危險を冒してまで後のゲームを更に有利にするか、或はフロント・ロウ三人をレギュラーにして大量得點を期するか、この冒險を敢行する決斷がつかなかつた爲に禍根を元旦の慶應戰に殘した。

鐵袖一觸東大には四一對一一でまづ豫定の如く勝つた。昔に聞いたF・Wもタイトに多少の力を示したもののルーズは本學優勢で、明大等のF・Wに對して立派に太刀打したといふ東大F・Wも何處に缺點があるのかと疑はしめる程であつた。

慶應戰

慶應チームの中軸をなす者はそのF・Wであり、就中フロント・ロウの三人及びバック・ロウは狡猾にしてタイト・スクラムを有利に組む事についても巧者であり、ルーズにおける球捌きも實に不思議な程妙を得てゐる。本學との前半ゴール寸前のルーズの右側を割つてトライした時などは、最初左側に松野と田治（慶應）が球を同時にグラウンドしたのであるが、松野安心してゐる間にいつの間にか右へ右へとルーズ・スクラムの背後を廻し瞬時にしてトライしたのである。田治は恐らく「イン・ゴール」內に於いてはピック・アップなしの一個條を心得要領よく手を使つて松野の裏を掻いたものと思ふが咄嗟の間に實に要領を得てゐる。扨關東對慶應の一戰より學んだものは慶應F・Wの最初の十二三分間の猛烈な突進早いバック・ロウのチャージ、下手なセンターT・B等で此等の點は朝鮮鐵道局軍と全く相似であつた。從つて大鐵戰の時の如く、七人のF・Wを八人のF・Wで押し倒し先づ其のオープンへの散開力を殺し、優勢なバック・メンで相手方T・Bと一騎打をする積りであつた。所がタイトで球を獲た時ですらキープして押しまくる事が思ふ樣に行かない、フロント・ロウが下から組まれてゐる爲である。東大戰の疲勞がある爲腰が高いのである。併し連續的に五碼、十碼と攻め込んで優勢を持してゆく事も勿論あるが一度相手側に球が出てキックされる時は、風速十數米の風下である事と、グラウンドの泥濘である爲に一擧に五、六十碼も逆襲されて了ふ樣な狀態だつた。最も大きな痛手は此の三つであつた。其の中風下の不利は後半は有利になる筈であるが、前半は機先を制する方が數倍も有利である。ミス・チャンスでドロップ・アウトになつたのを合せると後半のトライ數は兩軍一對一である。後半開始後二十分頃までの本學の優勢なる活躍は特記に價する。

關東のナンバー・ワン明治大學を降す

明大の研究は明同、及び明、關學の二戰で充分であつた。その特技は兩ウイングの强引、バック・ロウのオープンへの展開（時にはフロント・ロウも）クイック・ヒールその缺點は攻擊に當つてはスタンド・オフB T・Bの斜走（餘りにW・T・Bを頼り過ぎて）H・Bの緩動作、防禦に當つてはF・Bの位置淺きこと、左センターT・Bの出過ぎ、ルーズ・フッカーの餘り早いブレーク、セカンド・ロウ及びバック・ロウの防禦網の間の狹小等である。其の特技を封じて缺點を突くのは兵家の定石である。又相手の名譽心を常に傷けて急らしめるのも一法であらう。先づF・Wをして徹底的にラック・スクラムに忠實ならしめ明治F・Wと共倒れになる覺悟で戰つて果して西垣、山口、鍋加等のF・Wは全くルーズに牽制されオープンに働くといふ誇りを傷けられた。淺く位置する笠原は屢々妙技を演じかされ、鳥羽へ、岡へと急いで渡さうとする球は早い防禦で全部中斷され明大側のチャンスは全く無かつた。最初の明治のトライは明かにナット・インの球であり、第二のトライは磯田と天野の連絡失策によるまた極めて不運なものであつた。慶應に敗北の後一週間、心身の狀態には到底同大戰前の潑剌さは無かつたけれども、よく强氣で押し切つた爲に二、三年來見られなかつた或る力强さを見出した。次の年の宿題は優秀なメンバーの卒業によつて生ずるT・B線の缺陷を如何にしてF・Wがラック・スクラム內の球捌きの妙味によつて補つてゆくかにある。オープンに花々しく活躍する事を欲し、それを最上と心得てゐる關東F・Wと地道に密集に埋もれて先づ本來の本分に忠實たらんとする京大F・Wとの優劣は次のシーズンに明かになる事であらう。

布施冬樹君の死

十月二十二日、京大ラガーにとつては最大の痛恨事が起つた。首將布施冬樹君の逝去である。十月十四日の東京文理科大學の一戰に首將として責任感より風邪を冒して出場され其晚より肋膜炎、腹膜炎を併發し、其上敗血症にかゝられ病床にある事僅か一週間、明鐵との一戰の勝報をよろこびつゝ不歸の客となられた。餘りに大き悲しみであり全員唯呆然とした。併し其の純にして崇高、眞摯なる精神は吾々の生活態度に三思三省させるものがあつた。永く京大ラガーのスピリットの內に生きて性情を陶冶し不眞面目を叱咤する事を確信する。（をはり）

男性美工作

男性美價値90%は風采！

貴下の男性美工作の爲ぜひ
有本の洋服をお選び下さい

有本

帝大北門前

電話
上(3)2627

醫・農・理・工學部
講義プリント
各學部ノート筆寫
プリント社
萬里小路近衛上ル
電話上六四五〇番
醫學部西側

時計及眼鏡ハ
京大共濟部指定商
農大前
中小路
（北）
電上四二八七番

時計は中小路で

呼吸器科
舞子病院
兵庫縣垂水町　電舞子十四六
醫學博士　楢林兵三郎
本院　西洞院學校東　電〔西〕二五三二
分院　中山手二丁目電車停留所上ル　神戸レントゲン研究所
楢林院長診察（火、金）

眼鏡は中小路で…

學生様本位
正確なる
時計と眼鏡
三光堂
共濟部指定
親切第一
東山線大學病院東横

講義プリント
謄寫印刷
京都帝國大學北門前
黎明社
電話上四六二三番
振替大阪六四〇六七番

と要品・上田寫眞器店・
熊野神社前電停上ル
電話上三四一六番

宴會・クラス會には支那料理
桃園亭
京都河原町四条南電下
主人　王學惠
電話　下　六九五二　四七四五

關西大學教授　岩崎卯一著
（最新刊）
日本憲法の社會學的理解
菊判　五〇頁　定價三十五錢　送料四錢
著者の企圖せる法律社會學特殊研究の一にして、日本憲法を理論社會學の新見地より論究し、此方面に一新境地を開拓せる研究論文である。
甲文堂
大阪市東淀川區長柄中通
振替大阪六二五一〇

俳優と生活感情

新劇に於ける演技の問題に就て

八田元夫

A

頭だけで演技して居る。よく理解はして居るが演じがかたい。これは最近、我々の俳優の演技に對して、屢々見受ける批評だ。

頭でこなす——これは、築地以來、新劇の俳優に對して下された一般的な批評だ。然し、この中に我々は考へなければならない、重大な問題が含まれて居ると思ふなからう。が、頭だけで、と評される處に、お前の演は一寸も具體化されて居ないぞと云ふ、藝術家として致命的な缺陷がさらけ出されて居るのだ。

俳優達——新プロット系の演技は嚴密な意味では、矢張り、新築地系の演技に屬するものだが、プロット華かなりし頃に養成された俳優達はプロレタリア演劇の衰退期に向つて、上から下までの觀念的演說の間に口に辯證法のお題目を唱へ乍ら何時の間にか「頭」だけで演技する「癖」がついて了つた。それに、打續く上演禁止の對策としての急造りの初日は、俳優に演技プランをねる時間も與へればこそ、二三日の稽古で粗雜な初日をあけなければならなかつた。それも、曾てたゝかれて、演技の「ひき出し」を澤山もつて居る人達はまだよかつた。若い人達は、與へられた勞働者の配役を、日常的に配置されて居る地區活動の中からモデルを探し出して來て、それで何とか辻褄を合せて居たわけだつた。

B

それでも、まだ勞働者芝居の間は、客席の相笑、煽動性、動きの立體性等で、穴をあけることはなくして濟んだ。だが、どんづまりまで來て、局面打開としての、組織の飛躍的解消は、「先第一である」（バプ、觀客層の變遷を來し、それに伴ふレパートリーの轉換はこの若い俳優達に、役に對するとつき掛を、失はしめて了つた。組織的動員網によらない、廣汎な大衆相手の過渡的レパートリーの配役は「ひきだし」の狹い俳優達を當惑させるに充分だつた。嘗て觀客席をうならせた闘士は、何故てれた二枚目として、手もちぶさたな、演技をするのだらうか。そこに、俳優と生活感情の（藝術家と生活感情の）複雜な問題が介在する。曾ての、鬪爭的な演劇は、それらの俳優の貧しい演技でも感得せらるるものだつた。特に、煽動的場面の多いこの國の勞働者芝居は、生活の底まで掘り下げない見聞したそれらの生活の表面だけでも演りこなすには充分だつた。——だが、型を持合せない我々の俳優の場合、古典を、赤毛を、小市民層を描き出す場合に、生活の掘り下げの足りなさは、外形だけでも、つくろふに充分ではなかつた。●勉強家の彼等は、それでも一心にいろ／＼としらべ、たづね合せて來て舞臺に展開しやうとした——その結果は——知り得たことだけの羅列として、リアルに演じやうとした揚句は、却てトリビアルなものとならざるを得なかつた。

生活する範圍、見聞する範圍、狹義の生活感情の範圍內で演技することは、例令本格的なものではないにしろ、一應の形はなし得る。然し、舞臺上の技術は、多樣性に富んでゐなくてはならない。而もそれが、あれやこれやのかき集めであつては、トリビアリズムに墮する外はない。與へられた觀客席に適應し得る現在の到達した段階から、常に最も正しい一定の角度から演技されなくては、演劇の歷史を押流す我々の、眞に統一された舞臺は望めない。

C

俳優達は今、かゝる要求に應へ得るものとして、同志三好十郎の近作「妻恋行」をとりあげて居る。俳優達が、廣義の新劇の分野に於て、他の諸の劇團と異るところのものは、假令、プロレタリア演劇は衰退して了つたにせよ、それに參加し、而も殘された進歩的なインテリゲンツイアとして、一度政治的な組織的關係に於ては、切離されたにもせよまだ、衛頭的な關係に於て、勞働者の層を、良心的な知識層を中心的な觀客に持つと云ふことである。この中心的な觀客層に從つて、我々のレパートリイも、演技も形態も我々の新しい藝術方針も決定されなければならない。

私は、久方ぶりに、自ら志願して、一幕物、而も、我々の當面して居る課題を或程度までは生かし得る創作ものの演出の部署に當らせて貰つて、やゝ手に餘る大物をこなすときとは別な心構へで脚本と、俳優諸共と、四つに取組んで、我々の新しい、演技を方向づけるべく努力して居る。曾ての觀念的な鬪士でさへあつた俳優諸君は、こゝ一年、侍を、廷臣を、北歐の漁夫を、ルイ王朝のブルジョアを演じて來た苦心の上に立つて、現實の苦悶の中にある農村の生きた姿を、一つの諷刺された詩篇として、各々が生きた人間となつて舞臺に登場すべく、日夜汗みどろな努力をつづけて居る。他の諸藝術と同樣、演技も生活を掘りさげて行つて、そこから生きた社會の姿を摑みだして來なければならないのだ。

冬と感情

早瀨讓

夥しく木株のこれる冬山に颱風禍を思ふははろけきごとし

山水の音のとぼしさ颱風禍の疎林さ青き寒あかりかも

子の泣くにふと目覺めたる暗がりに手探れどなき點滅器のボタン

さびしき吾本性をまざまざと闇に擴がるみどりごのこゑ

目を閉ぢて探りあせれる點滅器のコードいさかふ闇にまざまざと

登山術

一兒島勘次

此度の白頭山が我々の志す遠征登山の練習ではあつたとしても今迄に氣付かなかつた種々の事を教へて與れたし、また氣付いてみても出來なかつた色んな仕事の樂を味はふとするのに役立つた。特に若い者にとつて氣分本位な旅情を味はふとか我張り一天狼の北アルプス等の登山の經驗だけでは得られない、しかも遠征登山に必要かくべからざるビジネスの一面を訓練したといふことは將來非常な參考になるものだと思ふ。實際おい行から。よしきたと行く旅や登山の氣輕さに比べて組織立つた遠征隊を繰出すまでのお膳立といふものは中々苦勞である。實を言へば今回の如きはやゝ常道でない捨身の構へであつたが準備工作の最後の所かトントン拍子にたゝみ込んで行けたのと、對手の山が手にあまる程のものでなかつたのでうまく凱歌を奏して歸つて來たものの、もつと大物をやる時にはどうしても定石通りに運ばないと中途でへたばつてしまふやうなことにならないとは限らない。計畫をジッヘルに進めるにはいくら一部の者がやきもきしても役に立たないので、世人が理解と後援を落ち着いてやつて欲しいものだと衷心から望む次第で、お祭り騒ぎや好奇心の迷惑なことは言ふまでもない。

遠征登山における三方面と言つては大げさだが、登山にかゝるまでの旅の味はひと登山其物とその間にはさまつてくるビジネスをうまく嚙みわけて寸糸みだれずの境に遊樂を積みたいと願つてゐる我々ではあるが登らう登らうとあせると後方勤務が面倒になるし、山麓の風景や人情に低徊しては登高心をにぶらしてしまふ。馴れぬ雜務に執着して外に眼をくばつてみられないのも憂鬱だし、こゝ一日自分の職業の知識のために殘りたいと思つても人夫を追ひ越して下山しなければならぬ場合もある。遠征隊としての意志を中心として出來るだけ色々なものを吸收しやうとするにはこの三つをうまく使ひ分けて行かなければならない。これには經濟にも心にもゆとりが必要であらう。ゆとりを無くした者の行動は外から見てゐてもぎこちなくてハラハラする、それに永い遠征となるとどうしても神經も高ぶりがちなので隊の統一も自然この方面から壞れやすい。これには主腦部の方で隊員の能力のギリギリまで追込まぬように注意すべきは勿論であるが、仕事の分擔に就いても互ひの信賴と技能が各隊員の心のゆとりにも身體のそれにも役立つものであらう。甚だ常識的な書方になつて書いてみても面白くないが、上記の色々なことがこんがらがつて小さい失敗や躊躇は多かつた。しかし上は四十九歳から下は二十二歳迄の隊員が十八名も行つて大した過誤もなく愉快に遠征を終つたことは一つは各人が登山で相當鍛へられてゐたのと一つは大部分がA・A・C・K（京大旅行部先輩と現役の組織してゐるもの）の倶樂部員でたとへ外から加はつた者があつてもこれに追隨してでしやばらなかつた所に成功の秘があつたと確信するものである。（寫眞は白頭山山頂）

波斯便り

足利惇氏

これは一九三三年七月以來海外にあり梵語研究に從事されてゐる文學部講師足利惇氏氏が最近、野上文學部長へ寄せられた私信の拔萃である

◇東方メシエッドの旅行を了りて後、十月二十日、當地日本公使館付駐在陸軍武官上田昌雄氏が、「アゼルヴアイジヤン」を經由して「ソヴエット」露西亞に入らるるを見送りかた／＼、此機會を利用して「タブリズ」を見物仕候、「メシエット」旅行の直後とて聊か健康を害し候しもやがて回復仕候、其內追々雨季も近づき、冬季の旅行は波斯にありては、雨雪のため困難を極むる都合上、十一月六日を以て、「テヘラン」を出發して「イエズト」「シラーズ」「イスパハン」の見物旅行を決行仕候

◇往路は「コム」より「カシヤーン」を經て「イスパハン」に一泊致し、翌朝「ナイン」を經て「イエズド」に着く此地に二泊致し候が、「イエズド」は御承知の如く「ケルマン」と同じく、波斯國に殘存する拜火教徒の多數住居し、大約一萬二千の教徒は、特殊の風俗習慣を守りつゝ、その東南の地域に古代宗教の儀禮を恪守致居候

私は諸宗教の中にて特に拜火教に興味を有し、これが研究の爲め、日本國より來れるものなることを告げし處、非常なる歡迎を受け、御陰にて、拜火教の儀式の微細なる點まで、指導を受申候、「アヴエスタ」に所謂「ハオマ」（梵語Soma蘇摩）と同種なりや否やは、問題として、彼等教徒は「フーム」と稱する藥草を飲料として用ゐ、又これを灸きて神に仕ふ

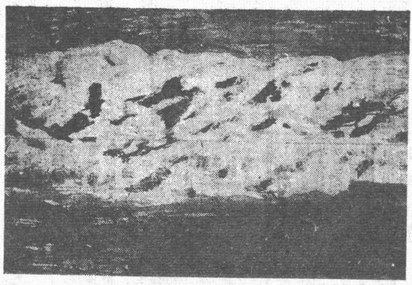
◇茲に私の注意を惹けるは、彼等教徒の間には、少くとも現代波斯語に非る言語を使用し居ることに候、此言語は一種特別のものにて、彼等の言ふ所に據れば、「アラビヤ」人侵入の際（西紀七百年代）「アラビヤ」人に解せぬやう特に秘密言語を造れりとの事に候、此につきてはなほ今後、私の意見を可申述候

◇「イエズド」より「シラーズ」「イスパハン」に會する間道は想像以上の惡き道にて、自動車の天井にて、腦天を打しこと再三度に止らず、豫定以上の時間を費して「テービッド」の寒村に一泊致候が、宿舍とてはなく、僅に自動車の「ガラーヂュ」にて、土間の一隅に夜を過し申候が、夜半蚊に襲はれ、不快なる一夜を過申候、翌日更に南下致し、「ムルガーブ」なる「キュロス」の陵墓に參詣仕候、此處は、本道より大約六粁を隔てたる「プルヴアー」の西方に有り陵墓と云はんよりも寧ろ拜火の祭壇の如く相見え申候、實に波斯最古の首都たりし「ペサルガデイ」の地は、北方波斯の地とは、格別の相違あり、陽光晴れ渡りて、天氣豐かに、何とも云へず氣分の落付く心地仕候地方に有之候

◇「ムルガーブ」より更に南下して「ナクシエルスタン」の見物は歸路に讓ることとし、先づ波斯帝國の興隆せる以後の首都「ペルセポリス」に向ひ申候「ペルセポリス」には獨乙系猶太人「ヘルツフエルト」氏在留し、米國より資金を得て、盛に故跡を發掘致居候「ペルセポリス」の宮殿は東北に峨々たる岩壁を負ひ西南は大平原の展開せる所に存在致居候、最近發掘せられしは「クセルクセス」宮殿にして、其東北に位する高壁は、特に詳細に見學仕候、又「ヘルツフエルト」氏が最近に發掘せる品々の中「ペルセポリス」の北方にて發見せる楔形文字の碑文の斷片にて、此の中には、「アベスタ」經典中、最古の部分たる「ガーハー」に見えたる文句らしきものの一部分が、彫刻せられ居ることにて候、此の斷片を補足する他の一半が未だ發見せられざるは遺憾に堪へざるも「アベスタ」は古代波斯語にて書かれしことなしと云ふ學說は全く、倒潰の外なしと存申候、又「クセルクセス」宮殿の東北の部分を發掘せる際幾多の古代波斯語の文書「タブレット」を發見せるが、其中に用ひたる用語中、大約一百許の語彙あり、意味不明の由、此等の研究は今後の學者の努力を待つとの事に候、又甚だ奇異なるは、今日迄の「ペルセポリス」の發掘には女性の日常使用品の發見せられざることにて、これは如何なる理由に基くや、最も注意すべき現象の一と存居候

◇「ペルセポリス」見學の後、轉じて「シラーズ」に到り、一泊致候「シラーズ」は、閑靜なる町にて「テヘラン」とは異なりて、積水も池塘に有之、秋已に深きに百花繚亂として、妍を競ひ、樹梢青々として、鳥語の其間に囀づるありて、遊子の心意を娛まし申候、此處にて詩人「サーデイ」及び「ハーフイズ」の墓を弔ひ申候「シラーズ」より「イスパハン」までの道路は、波斯國第一の道路に有之候歸路には「ナクシエルスタン」を見物仕候、同處は「ペルセポリス」の北に位し本通より大約八粁の處に有之候「イスパハン」には三泊仕候が「マスヂット、エ、シヤー」始め多くの藝術的建築物は都府の美觀を添へ、街衢粲然、工藝も又相當盛に有之候「ゼンデルード」又は「ザランデイ」河に臨み、秋も闌なるころとて、水清淺河床澄明、恰も京都を憶起せしめ申候、此處より約十六粁を距て、「マルス」の拜火教祠堂の遺墟あり、往きて、詳細に見學致候、かゝる中に天氣漸く險惡となり、四方の山々にも、既に積雪の皚々たるを望み候故、こは猶豫ならじと急ぎ「イスパハン」より「テヘラン」に歸らんとせしが、途中豪雨に遭遇し、波斯國第一の道路も、泥濘車軸を沒する有樣にて、乘り居る自動車の傾覆せんとすること幾度なりしやも不知、ともかくも命からがら日本公使館付の岸田秋雄博士の邸に歸り申候が、さきに露西亞に向ひ出發せる上田昌雄氏も、四五日前「テヘラン」に歸來せられ候が、同氏の坐乘せる自動車は、途中にて顛覆し、大破損をなせしも、幸ひに生命には別條なかりし由に有之候、波斯內地の雨季に入りて、旅行するの危險は屢々人の云へる所にて、巴里に於ても、吳々注意を受けしが、かほどの事とは思はざりしが、實地に遭遇して人言の善を欺かざりしことを承知仕候（文責在記者）

（カットはペルセポリスの百柱殿）



冬山の佇ひ

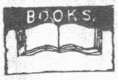
車窓をきる風景

繪と文　須田國太郎

大鐵沿線の富田林附近から東の連山を眺める壯觀、北は高貴寺あたりより葛城の山脈を南へ、金剛山を限る北山岳のたゞずまひ恐らく近畿地方に於てはその比を見ざるものである、必ずしも山が高いのでもない、聳立した奇勝を誇るのでもない、最もあらはな山自體が我々に迫つてくるところに於て比類が無いのである、山が我々と對立する、即ち正しく山を見ることは山に入つては駄目である、山に餘り接し過ぎては望まれない、山に登ることはその登りつゝある山を見るためには無意味である、眞に山をみるの位置は却て中々に有りがたい事を感ずるのである

これは山に限らないだらう、又冬は雪なき限り總てを裸にする、四季とりどりに山の美しさを異にするが、最も冬の山に山の本源的な姿を感ぜしめられる、夏の山は冬と同樣モノクロームにするが裸ではない、それに濕潤な大氣が重くかかる、春秋の色どりも山を美しくするがこれも粉飾の美である

山のウルビルド（原形）を觀ることには冬にまさる季節はない、我々はこの眞冬の落日をあびた葛城連山を最も正しく直面した位置に於てみながら車窓から正視し得る幸福を感謝するものである



現代新聞論

佐々木行雄

◇近頃新聞紙に關する出版物が目だつて多くなつた。大ていの綜合雜誌には新聞批判欄が設けられ、新聞の內報だけの日刊新聞さへある。將に"新聞時代"の感がある。これは一體何に原因するか。

◇新聞紙は何といつても二十世紀の巨人である。新聞紙の自恃心自尊心を現はす"社會の木鐸""無冠の帝王"といつたような標語の內容——意義は變化してゐるが依然として帝王的な社會的存在である。この巨人がノサばればノサばるほど、これを解剖し批判したくなるのは人情の自然である

◇新聞紙は資本主義發達の波に乘つて成長した。自由主義發達は新聞紙の母であり、新聞紙は自由主義の沃土の上に繁榮した資本主義の寵兒である。然るに資本主義が自由時代から統制時代に移行するに伴うて、新聞紙にも亦統制時代が來た。

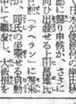
蘇聯、伊、獨の諸國では經濟統制を始めると同時に新聞紙の統制時代が來た。その他の資本主義國家では經濟上の半統制時代があつて新聞紙も亦不完全統制時代に進み入つた。この資本主義の轉換期は同時に新聞紙の轉換期である。資本主義が再吟味され、批判せられると同時に、資本主義の寵兒も亦批判されるのである。新聞論が盛んになり、新聞紙に關する刊行物が多くなつた一つの有力な理由である。

◇本書の一つの特長も、英、米、佛等の自由主義期を歩んでゐる國の新聞紙と、伊、獨、蘇聯等の獨裁的國家權力の統制下に置かれた新聞紙との對照である。此の對照が比較的明瞭に記述せられてゐることは類書に見られないところで、現代の新聞紙を知る上に極めて有益である。卷末の日本新聞發達小史と併せ讀めば新聞紙の進路を知るに好都合である。

◇本書は東大文學部新聞研究所の嘱託たる小野秀雄氏が、各國大學の新聞科及び新聞界の實情調査のために往年歐米を巡歷して蒐集した資料と最近の內外諸文獻や新聞の專門雜誌を涉獵して得た資料とを整理して集成したもの、前記の六大國の新聞發達史を叙述しつゝ各國新聞紙の特色を闡明するに力めてゐる。

◇だから各國新聞紙の發達歷史と現勢とを知るには便宜な本であり、資料にも信用が置ける。たゞ氣になるのは、本書の書名と內容とが一致しない嫌のあることである。"現代新聞論"といふ書名は一般的な"新聞論""新聞概論"等と受取られやすく、"歐米諸新聞紙の發達史及び現情"と受取られるやうな題名にして貰つた方がよかつた。敢て羊頭狗肉とはいはぬが、書名の概括的なのに比して內容は部分的である。

◇普及版クロース三百頁で二圓六十錢も少々仰々しい氣がする。この種のものは四六版紙裝一圓以下のチープ・エヂションにして貰ふべきものではあるまいか。文章の生硬さも氣にならぬでもない（時潮社發行）



◆ルソーよりバルザックへ（太宰施門著）「新エロイーズ」から「人間喜劇」まで、佛文學に於けるロマンチック時代を前後に限る天才ルソーよりバルザックへの進展を鮮明な鳥瞰圖風に解說し、讀者をしてバルザックまで誘つて來る前記の一聯の論文それに加ふるにバルザック研究の基礎となり又それへの段階ともなる總論的な論文、「バルザックの世界」を以てした氏の數年間の研究の結晶である。バルザック研究熱の熾烈な昨今、絕好の參考書（政經書院・一圓八十錢）

◆明治經濟學史（堀經夫）明治經濟學の樹立は封建的社會機構から資本主義的社會機構への轉換なくしては生れ得ない。日本に於けるそれは他の文化發展と同じく歐米先進國經濟學の輸入から發展する。本書はこの意味で、自由主義經濟、保護主義經濟の二テーマを促へて初期より明治卅年代までのそれを經濟者中心風に叙述してゐる（弘文堂・一圓五十錢）

◆經濟學史（リヤシチエンコ原著　平館利雄譯）本書は著者が一九一三——二三年ロシアの大學に於て教授した講義から成つてをり、且つ理論經濟學の他の教程の補助として、その基本的使命を有してをり、叙述の體系、性質、範圍もかうした使命に從つてなされてゐるのであり、經濟學說史に關する最新の入門書であり、經濟學を系統的に研究しようとする者にとつては缺くべからざるものである（叢文閣、金參圓參拾錢）

◆支那社會經濟史（森谷克己著）本書は六編に分れ、原始時代の社會より初まり殷周封建制の成立、發展完成、崩壞を中心にして支那の古代より近世に至るまでの社會組織、經濟機構を社會科學的研究態度に於て解明し、東洋的イデオロギーは、現代的生活過程に直接的主導者の地位の再認識にあるとて、觀念的研究態度を揚棄したところにこの著の價値があり、又そこに著者の努力が現はれ、支那研究、東洋思想研究に新しき一步を踏み出したものとして文化科學研究の學徒には必讀の書である（章華社各國社會經濟叢書一八〇錢）

◆現代社會學批判（早瀨利雄著）現代の市民的社會の深刻なる危機的動向は社會と文化との現實的綜合化的把握を企圖する理論形態たる社會學を要求するに至つた、市民的社會學の理論體系に於て的な分析的理解を與ふるにより、一定の批判基準に基いて科學的社會學建設を企圖する新進社會學徒が、初學者への入門書として本書に於て現代社會學說を批判的解明し、著者の理論に基く批判を加へ、以つて社會學の新しき理論的動向を指示した、蓋し思想的危機の現代に示唆を與ふる好著である（同文館二圓）

◆擔保物權法（田島順著）內容は緒論、留置權、先取特權、質權、抵當權の五章に分れ、研學の權威が蘊蓄を傾けたる好著にして、現に京大法學部のテキストとして用ひ序に「學生諸君の筆記の勞を省かんことを目的として執筆されたもの」とあるが、學生のみならず法學研究の徒には必讀の書である、（弘文堂書房二圓）

◆寄宿舍誌（復活創刊號）明治三十九年第一號刊行以來回を重ねること七號、大正元年寄宿舍解散のため刊行杜絕し、翌年復活、同五年再度杜絕の儘今日に至つた、然るに寄宿舍舍友會の今日舍誌發行の必要を痛感し、玆に復活創刊號を刊行し松井總長の題字を掲げ廣く新舊舍友の原稿を收め、寮內各部の活躍、卷末には舍友名簿を揭載し各自の動靜の一端を明らかにしてゐる

□本號の執筆者□

高田保馬　本學經濟學部教授
田中直吉　立命館大學教授
八田元夫　新築地劇團演出部員
須田國太郎　本學文學部美學科講師、獨立美術協會々員
兒島勘次　本學旅行部部員、日本山岳會々員
足利惇氏　本學文學部講師

體溫計類
新藥各種
處方調劑
熊野電停前
東山藥局
電上三一四〇

洋家具と室內裝飾品
京都帝大御用達
吉田洋家具店
河原町荒神口電停前
電話上(3)4581番

移轉御通知
店舖狹隘の爲今般左記へ新築移轉仕りました何卒倍舊の御引立の程御願申します
河原町萬壽寺電停前
今井洋服店
電話下一三六六番

寫眞の御用は……
裏門——佐伯へ！

和洋御料理　支那そば、わんたん、やきめし、ランチ、定食
營業時間　午前九時より
サービスデー　毎日曜日
パンヤの大衆食堂
帝國大學病院前熊野道下ル

御卒業服豫約開始
□確實な店です
□質と廉價と親切を
□賣るをモットーとする
高級レデイメード各種入荷致して居ります
皆様の店です
マルキヤ
丸紀屋洋服店
出町筋百萬遍西入南側

麻雀莊開店
學生諸賢の切なる御すゝめにより今回左記の處へ開莊仕りました、御家庭に於けると同樣イージーな御氣分で御勉學の餘暇はた又御靑食のスペアータイムには是非御揃ひで御越し下さる樣特に御懇願申します
何時でもメンバーの揃ふ店
百万遍麻雀莊
百萬遍帝大北門前

御進級
御卒業の洋服は
最も信用あり人氣あり
仕立のうまい弊店へ御
用を御願ひ申上げます
各大學專門學校御用達
京都市河原町丸太町(交叉點)角
シガヤ洋服店
電話上五二六二番

久吉本蓄音器店
電上五四六九
熊野神社南

◇ラヂオ◆蓄音器◆ダンス◇
ラヂオ・セット各種
レコードと蓄音器
K.S.D.A.
英國風社交ダンス教授
（毎日午後一時…十時　日曜及十七日休講）
一、教授が懇切、叮嚀
二、指導教授致シマス
京都社交ダンス
教授所

●邦樂洋樂各社新譜色々陳列●
丸太町千本角ヤマノ蓄音器部
レコード買マス

カメラ
カメラ各種
小型活動
在庫豊富
御不用品
高價買入
特＝即金
わかばや寫眞機店
京都四條富小路・電本3924

不眠症　神經衰弱の治療劑
アンミン
試驗前にまづ安眠
ウツ／＼として熟睡の出來ない時
ボンヤリして記憶力減退の時
頭痛はげしく勉强の出來ない時
胃腸刺戟副作用なく溶解キツメテ
早い散劑のアンミン
製劑元　京都市出町今出川上ル
京都藥理學研究所
藥價低廉
十五瓦三十錢、五十五錢、一圓二〇
醫學博士佐々木盛先生實驗推奬　胃腸刺戟習慣性のない自然の睡眠　散劑

性病科
皮膚科
泌尿器病科
理學療法科
烏丸四條下ル一筋目東入北側（綾小路烏丸東）
電話下(8)三四九二番
醫學博士　阿部正晋
阿部医院
診察時間　朝八時至一時　夜四時至九時

移轉開業御通知
今般左記の場所に店舖を開設致しまして、品柄の新鮮な御選擇、御紹介にも諸々の便宜と御利多實の販賣を御商戰の陣頭に押立て努力奮闘致します、何卒御後援御贔屓賜り度く伏而御懇願申上げます
京都市上京區河原町今出川東南角
井筒屋洋服店
電話上(3)六〇五三番